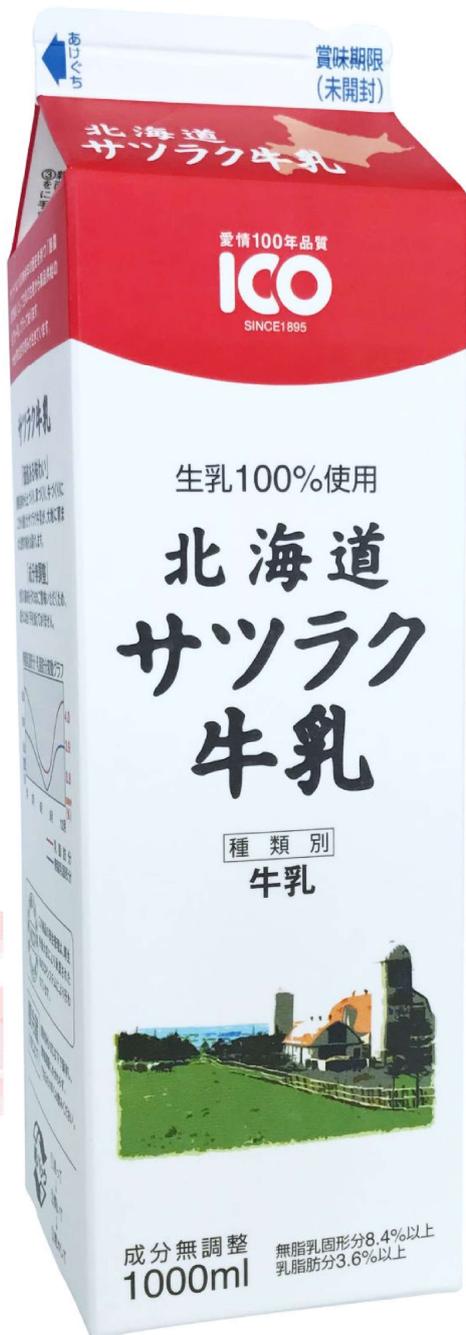


愛情100年品質  
**ICO**  
SINCE1895



REPORT 2020

サツラク  
プロフェーブル

サツラク農業協同組合

# DISCLOSURE CONTENTS

ごあいさつ	1
<b>I. サツラク農協の概要</b>	
1. 経営理念・経営ビジョン	2
2. 主要な業務の内容	3
3. 経営の組織	4
4. 社会的責任と地域貢献活動	7
5. リスク管理の状況	9
6. 自己資本の状況	13
<b>II. 業績等</b>	
1. 直近の事業年度における事業の概況	14
2. 最近5年間の主要な経営指標	15
3. 決算関係書類(2期分)	16
<b>III. 信用事業</b>	
1. 信用事業の考え方	35
2. 信用事業の状況	36
3. 貯金に関する指標	38
4. 貸出金等に関する指標	39
5. リスク管理債権残高	43
6. 金融再生法に基づく開示債権残高	44
7. 有価証券に関する指標	45
8. 有価証券等の時価情報	46
9. 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	48
10. 貸出金償却の額	48
<b>IV. その他の事業</b>	
1. 共済事業	49
2. 生乳共販事業	50
3. 購買事業	50
4. 畜産事業	51
5. 家畜診療事業	51
6. 市乳事業	51
<b>V. 自己資本の充実の状況</b>	
1. 自己資本の構成に関する事項	52
2. 自己資本の充実度に関する事項	54
3. 信用リスクに関する事項	57
4. 信用リスク削減手法に関する事項	61
5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手の リスクに関する事項	62
6. 証券化エクスポージャーに関する事項	62
7. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項	63
8. リスクウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項	64
9. 金利リスクに関する事項	65
<b>VI. 連結情報</b>	
1. 組合およびその子会社等の主要な事業の内容および組織の構成	67
2. 連結事業概況	68
3. 連結貸借対照表、連結損益計算書、連結注記表及び連結剰余金計算書	69
4. 連結事業年度のリスク管理債権の状況	87
5. 連結事業年度の金融再生法に基づく開示債権の状況	88
6. 連結事業年度の最近5年間の主要な経営指標	89
7. 連結事業年度の事業別経常収支等	89
8. 連結自己資本の充実の状況	90
<b>VII. 財務諸表の正確性等に係る確認</b>	104
<b>VIII. 沿革・歩み</b>	
1. トピックス	105

## ごあいさつ

組合員、地域のみなさま方には、平素より当組合をご愛顧賜り誠にありがとうございます。

このたび、みなさま方に当組合をより一層ご理解いただくために、令和元年度版「サツラクプロフィール」を発刊いたしました。今後、本冊子を通じみなさま方とのおつきあいがより深まれば幸いに存じます。

さて、昨年は、政府が推進する農協改革集中推進期間の期限の年であり、五月までに組合の信用事業のあり方について一定の結論（「継続」「合併」「代理店化」「廃止」）を出すよう求められておりましたが、当組合は引き続き信用事業を継続し、さらなる内部管理態勢の高度化を図るとともに、組合員皆様の利便性向上、酪農経営支援など総合事業体としてその使命を果たす道を選びました。

一方、生乳出荷組合員に再生産可能な所得を確保してもらうべく、4月1日より乳価を値上げいたしました。製品価格の引き上げも同時に行い、飲用乳販売量の減少が懸念されましたが、特に大きな影響もなく、順調に販売量を伸ばし、令和元年度の経常利益は 214 百万円となり、固定資産売却益などの特別損益を加減した税引前当期利益は 233 百万円を確保することができました。

また、財務の健全化に向けた取り組みについては、利益処分における内部留保と配当支出のバランスを図りながら自己資本の拡充を進め、かつ、固定資産の取得を抑制することにより、固定比率等諸比率は順調に改善されております。今後も継続して自己資本の拡充、固定資産取得の抑制に努めてまいります。

本年は、当組合が 1970 年に札幌工場を建設し市乳事業を開始してから50周年を迎えます。「健土健民」思想のもと、土づくり、草づくり、牛づくりにこだわり、「生乳に優る製品なし」を合言葉に、良い生乳を生産し、消費者の皆様方に安全でおいしい牛乳を供給し続けてきた組合員や職員の努力、苦勞に支えられた50年であります。現在、当組合は、生乳出荷組合員の減少、これに伴う生乳生産量の減少といった大きな問題を抱えておりますが、この構造的な問題を解決に導くためには、組合のあるべき姿、求められる役割、果たさなければならない使命を明確にし、組合として将来に夢の持てる明るいビジョンを描き、若い人たちが将来も酪農をやりたいと思える環境をつくることが重要となります。これからも、中期計画にて掲げている「営農支援の強化」「乳価財源の最大化に向けた取り組みの強化」を基本としながら、60年、70年、そして100年と、組合員の皆様が将来も安心して酪農経営を継続できるよう役職員一同「ONE TEAM(ワンチーム)」となり全力で取り組んでまいります。

今後も取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されますが、組合員、地域のみなさま方のお役に立てる組合づくりに精励してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年6月5日

## サツラク農業協同組合

代表理事組合長 大坪 慶博

# I. サツラク農協の概要

## 1. 経営理念・経営ビジョン

### 【 経営理念 】

「生・処・販」一貫体制（生産・加工・販売）を基本とした組合経営の下に、組合員の生産物を専門農協の特性を活かして優位販売するとともに、指導を含めた営農支援の充実により、組合員の豊かな酪農経営の確立を図る。

### 【 組合共通 経営ビジョン 】

「乳のおいしさ」や「安心」「健康」を提供することによってお客さまの暮らしに貢献し、生産から処理・販売までに携わる人々やサツラクを支えていただく全ての人々と喜びを分かち合い誇りを持てる組合を目指します。

お客様  
のために

組合員  
のために

社会  
のために

サツラクを支  
えてくださる  
全ての方々  
のために

職員  
のために

### 【 重点方針 】

#### □ 持続可能な酪農経営の実現

営農支援の強化（組合員の生産性向上）と担い手確保・育成支援、労働力確保、法人化・協業化などの営農相談機能の充実により持続可能な酪農に向けた取り組みを実践してまいります。

#### □ 乳価財源最大化に向けた対策強化

サツラク牛乳・乳製品の販売価値向上並びに販売コスト低減、ブランド力向上などの取り組みを実践し組合員の所得向上を図ります。

#### □ 組合員サービスの高度化

各部門において中心となる専門職員の育成に取り組み、様々な相談に対応できる体制の構築を図ります。

#### □ 不採算領域の変革の継続的な実行と競争優位性の高い事業への経営資源の集中

競争優位性の高い事業へ経営資源を集中するため組織の最適化を検討するとともに、成長に必要な部門（商品開発・営業企画・食品安全保証など）の新設と人員再配分の検討を行います。

#### □ 経営基盤のさらなる強化

経営基盤のさらなる強化により経営の健全性向上、コンプライアンス意識のさらなる醸成に努め、経営の安定を図ります。

#### □ 活力ある職場環境づくりの推進

働き方改革の推進により職員満足度（＝働きがい）の向上に努めてまいります。

#### □ BCP（事業継続計画）対応基準の見直し

胆振東部地震による大規模停電を教訓にBCP（事業継続計画）の対応基準の見直しを行うとともに、市乳工場への自家発電設備の整備と万全な生乳の受入れ態勢の構築が求められることから、国や行政などの支援を求めながら検証と対策を講じてまいります。

## 2. 主要な業務の内容

### 事業のご案内

#### 信用事業

信用事業は、貯金・貸出・為替など、いわゆる金融業務といわれる内容の業務を行っています。この信用事業は、農協・信連・農林中金という三段階の組織が有機的に結びつき、農協系統金融として大きな力を発揮しています。

##### ■貯金業務

組合員はもちろん地域住民のみなさまや事業主のみなさまからの貯金をお預かりしています。普通貯金、貯蓄貯金、定期積金、スーパー定期、変動金利定期貯金などの各種貯金を目的、期間、金額にあわせてご利用いただいております。

##### ■貸出業務

組合員への貸出をはじめ、地域住民のみなさまの暮らしや、農業者・事業者のみなさまの事業に必要な資金を貸出しています。

また、地方公共団体、農業関連産業などへも貸出し、地域経済の質的向上・発展に貢献しています。さらに、住宅金融支援機構、日本政策金融公庫の融資の申し込みのお取り次ぎもしています。

##### ■為替業務

全国の農協・県信連・農林中金の店舗をはじめ、全国の銀行や信用金庫などの各店舗と為替網で結び、当組合の窓口を通して全国のどこの金融機関へでも送金や手形・小切手等の取立てが安全・確実・迅速にできる内国為替をお取り扱いしています。

##### ■サービス・その他

当組合では、コンピュータ・オンラインシステムを利用して、各種自動受け取り、各種自動支払いや事業主のみなさまのための給与振込サービス、自動集金サービス、口座振替サービスなどをお取り扱いしています。

また、全国の農協での貯金の出し入れや銀行、信用金庫などでも現金引き出しのできるキューッシュサービス等いろいろなサービスに努めています。

#### 共済事業

共済事業は、終身共済・年金共済・生命共済・子ども共済などの生命保険相互会社と類似する商品と火災共済・建物更生共済・自動車共済・自賠償共済などの損害保険会社と類似する商品をそれぞれお取り扱いしております。私たちはこれからも共済事業を積極的に推進し、みなさまの生涯にわたる安心とゆとりある暮らしのお役に立てることを願っております。

#### 生乳共販事業・営農支援対策事業

組合員に対し酪農に関する技術提供、情報提供を行い良質乳の生産に取り組むとともに、その成果品である生乳の集荷から販売までを一括して受託しております。

#### 購買事業

営農に必要な資材、物資を安定的かつ組織的にまとめて購入し、利用者に有利な条件で供給できるよう努めております。

#### 畜産事業

乳牛の売買取引の斡旋、仲介並びに牡犢の引取りを行っております。

#### 家畜診療事業

組合員が飼育する乳牛の疾病予防、人工授精、診療はもとより、乳質向上や繁殖効率の改善など生産性向上対策に取り組んでおります。

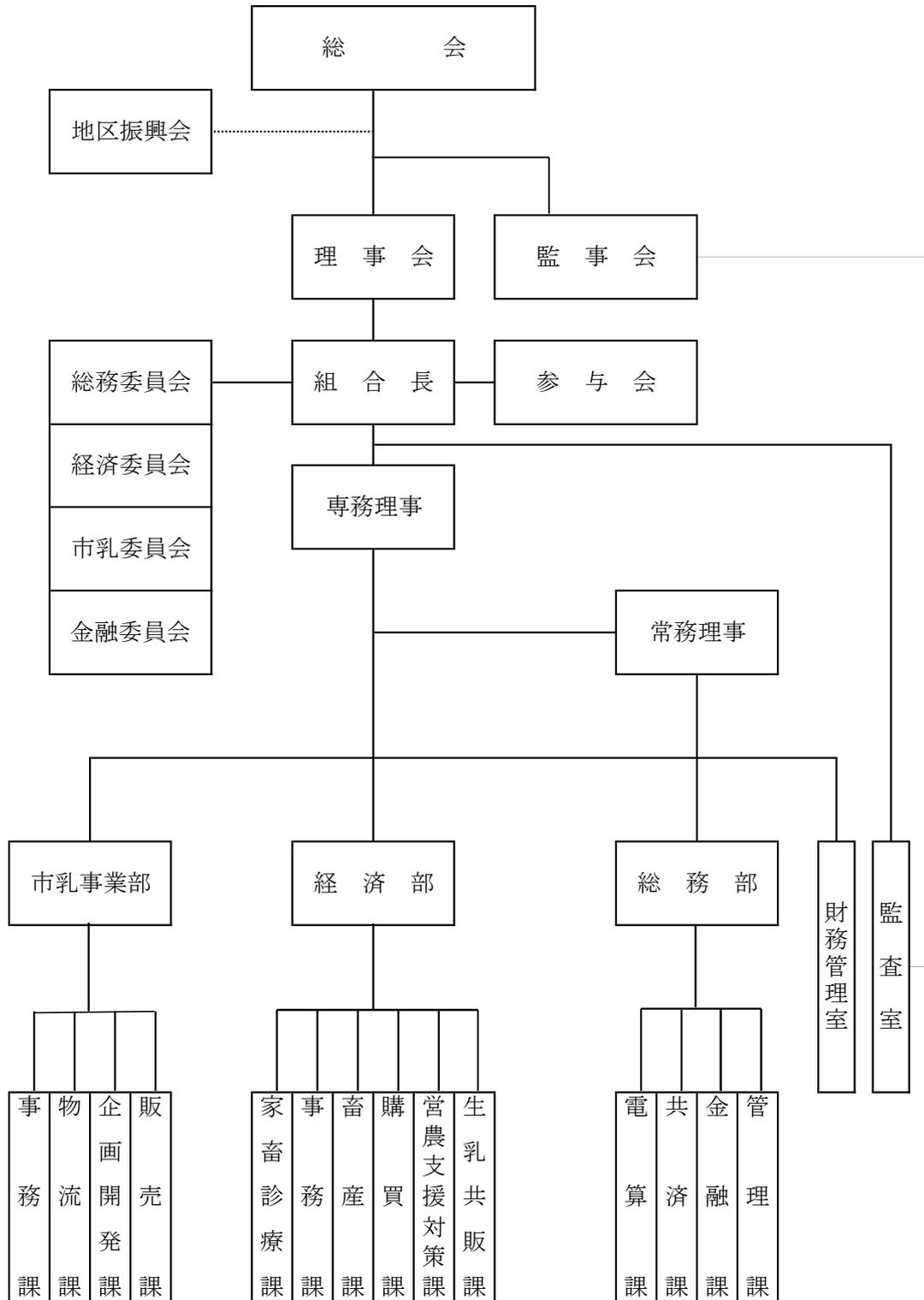
#### 市乳事業

組合員の生産した生乳を処理、加工した新鮮で安全な牛乳・乳製品をみなさまにお届けいたします。

### 3. 経営の組織

#### ① 組織機構図

(令和2年3月現在)



## ② 組合員数

(単位:人)

	30年度末	元年度末	増 減
正 組 合 員 数	236	229	△ 7
個 人	220	213	△ 7
法 人	16	16	0
准 組 合 員 数	1,555	1,627	72
個 人	1,542	1,614	72
法 人	13	13	0
合 計	1,791	1,856	65

## ③ 組合員組織の状況

(令和2年3月現在)

組 織 名	代 表 者 名	構 成 員 数
サツラク青年同志会	会 長 黒澤正太郎	58人
サツラク婦人同志会	会 長 岩本美津	24人
サツラクシニア会	会 長 永野拓也	30人

## ④ 地区一覧

地 区	区 域 名
石 狩 振 興 局	札幌市、江別市、恵庭市、千歳市、石狩市、北広島市、 その他各町村の全域
空 知 総 合 振 興 局	岩見沢市、美唄市、三笠市、夕張市、深川市、滝川市、 赤平市、芦別市、砂川市、歌志内市、その他各町村の全域
上 川 総 合 振 興 局	旭川市、東神楽町、上富良野町
後 志 総 合 振 興 局	小樽市、その他各町村の全域
胆 振 総 合 振 興 局	伊達市、苫小牧市、室蘭市、登別市、その他各町村の全域

## ⑤ 理事及び監事の氏名及び役職名

### ■ 役員一覧

(令和2年3月現在)

役 員	氏 名	役 員	氏 名
代 表 理 事 組 長	大 坪 慶 博	理 事	池 田 勲
専 務 理 事	長 濱 秀 人	理 事	戸 田 秀 美
常 務 理 事	吉 澤 郁 生	理 事	亀 田 泰 貴
理 事	生 野 隆 雄	理 事	後 藤 晃 司
理 事	萩 中 昭 夫	代 表 監 事	山 本 裕 康
理 事	西 尾 和 彦	監 事	川 口 谷 仁
理 事	高 橋 祐 介	員 外 監 事	見 上 孝 太 郎

## ⑥ 事務所の名称及び所在地

### ■ 店舗一覧

(令和2年3月現在)

店舗名	住所	電話番号	CD/ATM設置台数
本所	札幌市東区苗穂町3丁目3番7号	011-721-7301	1
市乳事業部	札幌市東区丘珠町573番地27	011-785-7800	

(注)本所以外は信用店舗ではありません。

## ⑦ 共済代理店の状況

(令和2年3月現在)

区分	氏名又は名称 (商号)	主たる事務所の所在地	代理業を営む営業所 又は事業所の所在地
共済代理店	(有)オートサービス木村	札幌市東区東苗穂5条3丁目3-50	同左
	ダイワ整備機工(株)	札幌市東区東苗穂2条3丁目3-55	同左

#### 4. 社会的責任と地域貢献活動

◆ 全般に関する事項							
<p>■ 協同組織の特性</p>	<p>当組合は、石狩振興局・空知総合振興局・後志総合振興局・胆振総合振興局の全域、上川総合振興局の一部を事業区域として農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助(お互いに助け合い、お互いに発展していくこと)を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。</p> <p>当組合の資金は、その大半が組合員の皆さまなどからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では資金を必要とする組合員の皆さま方にご利用いただいております。</p> <p>当組合は、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。</p> <p>また、JAの総合事業をつうじて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助けあいを通じた社会貢献に努めています。</p>						
組 合 員 数	1,856名 (令和元年12月末現在)						
出 資 金	1,303百万円 (令和元年12月末現在)						
1. 地域からの資金調達の状況							
■ 貯金積金残高	19,035百万円						
■ 貯金商品	<input type="radio"/> 普通貯金(総合口座) <input type="radio"/> 貯蓄貯金 <input type="radio"/> 定期積金 <input type="radio"/> 定期貯金(スーパー定期) <input type="radio"/> 変動金利定期貯金 <input type="radio"/> 期日指定定期貯金						
2. 地域への資金供給の状況							
■ 貸出金残高	<table border="1"> <tr> <td>組合員等</td> <td>6,298百万円</td> </tr> <tr> <td>地方公共団体</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>443百万円</td> </tr> </table>	組合員等	6,298百万円	地方公共団体	-	その他	443百万円
組合員等	6,298百万円						
地方公共団体	-						
その他	443百万円						
■ 制度融資取扱状況	<input type="radio"/> 農業近代化資金 <input type="radio"/> 農業経営基盤強化資金 <input type="radio"/> 農業改良資金 <input type="radio"/> 農家負担軽減支援特別資金 <input type="radio"/> 畜産特別資金						
■ 融資商品	<input type="radio"/> 住宅及びリフォームローン <input type="radio"/> マイカーローン <input type="radio"/> 教育ローン <input type="radio"/> その他(フリー)ローン						

### 3. 文化的・社会的貢献に関する事項

#### ■ 文化的・社会的貢献に関する事項

「サッポロさとらんど」の酪農ゾーンとして、「ミルクの郷」を運営し、その中の各施設を通して市民・消費者の方々に酪農に対する理解や牛乳・乳製品に対する知識を深めていただくための活動を展開

- 各種農業関連イベントや、地域活動への協賛
- アイドリング・ストップ運動の展開
- 日本赤十字社の献血への積極的参加
- 環境美化への取り組み(花いっぱい運動)
- 交通安全啓蒙活動への積極的参加
- 高齢者を対象としたイベント活動(健康講座)
- 地球温暖化防止対策の実施

#### ■ 情報提供活動

- 組合だより等の広報誌の発行
- インターネットやFAXを通じた、組合員等利用者、消費者への情報提供

### 4. 地域貢献に関する事項(地域との繋がり)

#### ■ 地域貢献に関する事項

組合員である農業者の経営支援および地域住民の暮らしに根ざしたサービスの提供等により、地域の活性化に向け、積極的に取り組んでいます。

- 地域密着型金融への取り組み
- 農業者等の経営支援に関する取組み方針
- 農業者等の経営支援に関する態勢整備
- ライフサイクルに応じた担い手支援、地域住民の暮らしに根ざしたサービスの提供
- 経営の将来性を見極める融資手法を始め担い手に適した資金供給手法の取り組み

## 5. リスク管理の状況

### ■ リスク管理体制

[リスク管理方針]

組合員・利用者の皆さまに安心して当組合をご利用いただくためには、より健全性の高い経営を確保し、信頼性を高めていくことが重要です。

このため、有効な内部管理態勢を構築し、直面する様々なリスクに適切に対応すべく「リスク管理方針」を策定し、認識すべきリスクの種類や管理体制と仕組みなど、リスク管理の基本的な体系を整備しています。

また、この方針に基づき、収益とリスクの適切な管理、適切な資産自己査定の実施などを通じてリスク管理体制の充実・強化に努めています。

#### ① 信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産(オフ・バランスを含む。)の価値が減少ないし消失し、金融機関が損失を被るリスクのことです。

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。

また、通常の貸出取引については、財務管理室を設置し、与信審査を行っています。

審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。

貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。

不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。

また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については資産の「償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

#### ② 市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債(オフ・バランスを含む。)の価値が変動し、損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクのことです。主に金利リスク、価格変動リスクなどをいいます。

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在している中で金利が変動することにより、利益が低下ないし損失を被るリスクをいいます。

また、価格変動リスクとは、有価証券等の価格の変動に伴って資産価格が減少するリスクのことです。

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

#### ③ 流動性リスク管理

流動性リスクとは、運用と調達のみスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、又は通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク(資金繰りリスク)のことです。

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。

#### ④ オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、業務の過程、役職員の活動もしくは、システムが不適切であること又は外生的な事象による損失を被るリスクのことです。

当組合では、収益発生を意図し能動的な要因により発生する信用リスクや市場リスク及び流動性リスク以外のリスクで、受動的に発生する事務、システム、法務などについて事務処理や業務運営の過程において、損失を被るリスクと定義しています。

事務リスク、システムリスクなどについて、事務手続を整備し、定期点検等を実施するとともに、事故・事務ミスが発生した場合は速やかに状況を把握する体制を整備して、リスク発生後の対応及び改善が迅速・正確に反映ができるよう努めています。

#### ⑤ 事務リスク管理

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより金融機関が損失を被るリスクのことです。

当JAでは、業務の多様化や事務量の増加に対応して、正確な事務処理を行うため事務マニュアルを整備するとともに、自主検査・自店検査を実施し事務リスクの削減に努めています。

また、事故・事務ミスが発生した場合には、発生状況を把握し改善を図るとともに、内部監査により重点的なチェックを行い、再発防止策を実施しています。

#### ⑥ 内部監査の体制

当組合では、内部監査部門を被監査部門から独立して設置し、経営全般にわたる管理及び各部門の業務の遂行状況を、内部管理態勢の適切性と有効性の観点から検証・評価し、改善事項の勧告などを通じて業務運営の適切性の維持・改善に努めています。

また、内部監査は、組合のすべてを対象とし、中期及び年度の内部監査計画に基づき実施しています。

監査結果は代表理事組合長及び監事に報告したのち被監査部門に通知され、定期的に被監査部門の改善取り組み状況をフォローアップしています。

また、監査結果の概要を定期的に理事会に報告することとしていますが、特に重要な事項については、直ちに理事会、代表理事組合長、監事に報告し、速やかに適切な措置を講じています。

## ■ 法令遵守の体制(コンプライアンスの取組みについて)

### ○基本方針

当組合は昭和23年の創業以来「農協として社会の望むこと及び時代の要請に応じた業務活動を通じて、地域経済・社会の発展に寄与し公共的使命と社会的責任を全うしていく」ことを基本理念に掲げこの基本理念を実現していくことが社会的責任を全うすることと考えております。

一方、利用者保護への社会的要請が高まっており、また最近の企業不祥事に対する社会の厳しい批判に鑑みれば、組合員・利用者からの信頼を得るためには、法令等を遵守し、透明性の高い経営を行うことがますます重要になっています。

関係法令をはじめとして、定款、規約、組織内部の各種規程・要領・手続等を遵守することは社会の公器であることから、当組合としてはそれらの遵守を役職員一人一人の最低限の義務と考えております。

このため、コンプライアンス(法令等遵守)を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、この徹底こそが不祥事を未然に防止し、ひいては組織の信頼性向上に繋がるとの観点にたち、コンプライアンスを重視した経営に取り組みます。

### ●運営体制

コンプライアンス態勢全般にかかる検討・審議を行うため、代表理事組合長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置するとともに、コンプライアンスの推進を行うため、各部署にコンプライアンス推進担当者を任命し担当者会議を行っております。

基本姿勢及び遵守すべき事項を記載した手引書「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、研修会を行い全役職員に徹底し、実効ある推進に努めるとともに、統括部署を設置し、その進捗管理を行っております。

組合員・利用者の皆さまの声を真摯に捉え、前向きに事業に反映するため、苦情・相談等の専門窓口の「お客様相談室」を設置しています。

また、以下に掲げた具体策等を通じ、法令遵守の取組体制の強化を図っています。

- ・ 学経理事・監事の登用
- ・ 理事会・監事の業務監視機能による相互牽制体制
- ・ 顧問弁護士との契約
- ・ 融資審査体制の整備
- ・ 内部監査室の設置
- ・ 企画会議等での組合長からの訓示
- ・ 役職員の法務研修派遣の実施
- ・ 法令等の内部勉強会の実施

## ■ 金融ADR制度への対応

### ① 苦情処理措置の内容

当組合では、苦情処理措置として、業務運営体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページで公表するとともに、JAバンク相談所やJA共済連とも連携し、迅速かつ適切な内容に努め、苦情等の解決を図ります。

当組合の苦情等受付窓口(電話:011-721-7301(9時から17時 金融機関の休業日を除く))、また、北海道農業協同組合中央会が設置・運営する北海道JAバンク相談所(電話:011-232-5031(9時から17時 金融機関の休業日を除く))でも、苦情等を受け付けております。

### ② 紛争解決措置の内容

当組合では、紛争解決措置として、次の外部機関を利用しています。

#### ・信用事業

札幌弁護士会

上記弁護士会の利用に際しては、JAバンク相談所を通じてのご利用となりますので、①の当組合窓口または一般社団法人JAバンク相談所(電話:03-6837-1359)にお申し出ください。

#### ・共済事業

(一社)日本共済協会 共済相談所 (電話:03-5368-5757)

<https://www.jcia.or.jp/advisory/index.html>

(一財)自賠償保険・共済紛争処理機構

<http://www.jibai-adr.or.jp/>

(公財)日弁連交通事故相談センター

<http://www.n-tacc.or.jp/>

(公財)交通事故紛争処理センター

<http://www.jcstad.or.jp/>

日本弁護士連合会 弁護士保険ADR

<https://www.nichibenren.or.jp/activity/resolution/lac.html>

各機関の連絡先(住所・電話番号)につきましては、上記ホームページをご覧くださいか  
①の当組合窓口にお問い合わせください。

## 6. 自己資本の状況

### ① 自己資本比率の充実

当組合では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和元年12月末における自己資本比率は、19.25%となりました。

### ② 経営の健全性の確保と自己資本の充実

当組合の自己資本は、組合員の普通出資による資本調達を行っております。

#### ○ 普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	サツラク農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本にかかる基礎的項目に算入した額	1,303百万円

当組合は、「自己資本比率算出要領」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当組合が抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

とりわけ、財務基盤強化のため、出資配当金(税引後)については増資に振り向けていただくことで進めております。

なお、自己資本の充実に関する詳細は、「V 自己資本の充実の状況」に記載しております。

## Ⅱ. 業 績 等

### 1. 直近の事業年度における事業の概況

令和元年度は、組合員に再生産可能な所得を確保してもらうべく、4月から基本乳価を3円24銭/kg(消費税8%込)、需要期高品質生乳確保奨励金、需要期生乳確保対策奨励金をそれぞれ1円8銭ずつ(消費税8%込)値上げいたしました。事業分量配当によるさらなる乳価の上積みを目指して、業績の向上、利益の追求に努めてまいりました。

総体の生乳生産量は、前年産の粗飼料の品質低下の影響もあり42,360トン(前年比98.1%)、うち石狩地区は40,515トン(前年比98.7%)という結果となりました。

市乳事業は、主要品目である飲用乳(成分無調整牛乳、成分調整牛乳)について、北海道内での市場確保と東北地方の販売強化に努めました。4月の原料乳価改定により製品の価格改定を実施し値上げによる消費の落ち込みが懸念されましたが、計画、前年実績をともに上回る結果となりました。

( 飲用乳合計:33,601 kl、計画比 100.7%、前年比 103.1% )

乳製品は乳飲料、乳酸菌飲料等の落ち込みにより、計画、前年実績をともに下回りました。

( その他乳製品合計:7,545 kl、計画比 94.4%、前年比 99.8% )

また、市乳事業部では株式会社ミルクの郷との共同プロジェクトチームにより食品安全マネジメントシステム(国際認証)取得に取り組んでまいりましたが、当組合は「ISO22000」、株式会社ミルクの郷は「ISO22000」「FSSC22000」を12月に取得することができました。今後については、マネジメントシステム規格要求事項への理解を深め品質管理体制を充実することにより、消費者並びにお取引先様へより安全・安心な製品を提供してまいります。

信用事業は、平成29年度より金融・共済事業を総合的に行う複合推進を実践し、金融・共済商品をワンストップで対応できる人材の育成、体制の整備に向けた取り組みを加速させてまいりました。その結果、年度末貯金残高は190億35百万円で計画(100.6%)・前年実績(102.0%)共に上回る結果となりました。

共済事業におきましても、複合推進の取り組みを加速させてまいりましたが、長期共済保有高は、142億50百万円で、建物更生共済における大型契約の中途解約が影響し計画未達成に終わりました。

令和元年度の税引前当期利益は、計画を上回る232,579千円となりました。

今後ともサツラク農協としての役割を果たすべく、コンプライアンス態勢の推進、リスクマネジメントの取り組みによる経営体質の強化、財務基盤の拡充に努めてまいりますのでみなさま方の一層のご理解、ご協力を賜りたく存じます。

## 2. 最近5年間の主要な経営指標

(単位: 百万円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経常収益	9,155	9,523	9,398	9,304	9,922
信用事業収益	150	154	152	159	165
共済事業収益	35	41	40	44	44
農業関連事業収益	8,874	9,237	9,114	9,002	9,600
その他事業収益	96	91	92	99	113
経常利益	118	175	276	112	214
当期剰余金(注)	85	160	262	65	184
出資金	1,273	1,280	1,272	1,276	1,303
出資口数	424,361口	426,738口	424,092口	425,429口	434,399口
純資産額	2,273	2,382	2,600	2,600	2,775
総資産額	20,576	21,725	22,595	23,191	23,822
貯金等残高	16,470	17,460	18,206	18,669	19,035
貸出金残高	3,935	3,997	4,524	5,374	6,741
有価証券残高	-	-	-	-	-
剰余金配当金額	37	66	58	34	72
出資配当の額	12	12	13	13	13
事業利用分量配当の額	25	54	45	21	59
職員数	116人	114人	110人	115人	110人
単体自己資本比率	17.28%	17.75%	18.74%	18.72%	19.25%

注1) 当期剰余金は、銀行等の当期利益に相当するものです。

注2) 「単体自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しております。

### 3. 決算関係書類(2期分)

#### ■ 貸借対照表

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	科 目	平成30年度	令和元年度
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
1 信用事業資産	17,771,876	18,612,309	1 信用事業負債	18,810,422	19,198,554
(1) 現金	40,971	43,005	(1) 貯金	18,669,242	19,034,767
(2) 預金	12,298,013	11,773,983	(2) 借入金	-	-
系統預金	(12,295,839)	(11,771,357)	(3) その他の信用事業負債	141,179	163,786
系統外預金	(2,174)	(2,626)	未払費用	(33,572)	(27,610)
(3) 有価証券	-	-	その他の負債	(107,608)	(136,177)
(4) 貸出金	5,373,765	6,741,177	2 共済業負債	42,798	26,053
(5) その他の信用事業資産	73,531	73,249	(1) 共済借入金	1,060	-
未収収益	(68,810)	(70,213)	(2) 共済資金	27,231	11,840
その他の資産	(4,722)	(3,036)	(3) 共済未払利息	22	-
(6) 貸倒引当金	△ 14,405	△ 19,104	(4) 未経過共済付加収入	14,352	14,126
2 共済事業資産	1,999	1,365	(5) 共済未払費用	133	88
(1) 共済貸付金	1,060	-	(6) その他の共済事業負債	-	-
(2) 共済未収利息	22	-	3 経済事業負債	1,538,885	1,601,063
(3) その他の共済事業資産	924	1,369	(1) 支払手形	15,945	15,380
(4) 貸倒引当金	△ 7	△ 4	(2) 経済事業未払金	723,085	719,226
3 経済事業資産	2,275,833	2,131,089	(3) 経済受託債務	321,173	333,373
(1) 受取手形	-	-	(4) その他の経済事業負債	478,681	533,084
(2) 経済事業未収金	1,218,817	1,204,223	4 設備借入金	-	-
(3) 経済受託債権	437,053	461,351	5 雑負債	193,569	196,179
(4) 棚卸資産	310,463	114,074	(1) 未払法人税等	39,930	22,666
購買品	(41,858)	(44,120)	(2) リース債務	34,380	28,792
販売品	(42,471)	(50,598)	(3) その他の雑負債	119,259	144,721
その他の棚卸資産	(226,134)	(19,356)	6 諸引当金	-	-
(5) その他の経済事業資産	313,055	356,999	(1) 退職給付引当金	-	-
(6) 貸倒引当金	△ 3,554	△ 5,558	7 繰延税金負債	4,883	25,944
4 雑資産	4,100	9,710	負債の部合計	20,590,556	21,047,792
(1) 経済事業以外の債権等	4,100	9,711	(純 資 産 の 部)		
(2) 貸倒引当金	-	△ 1	1 組合員資本	2,525,600	2,706,446
5 固定資産	2,365,010	2,293,054	(1) 出資金	1,276,287	1,303,197
(1) 有形固定資産	2,361,316	2,290,175	(2) 資本準備金	1,854	1,854
建物構築物	(927,091)	(869,516)	(3) 利益剰余金	1,254,692	1,406,090
車両運搬具	(0)	(0)	利益準備金	(887,659)	(905,659)
機械装置	(724)	(380)	任意積立金	(285,000)	(300,000)
工具器具備品	(974)	(603)	当期末処分剰余金	(82,033)	(200,431)
一括償却資産	(0)	(254)	[うち当期剰余金]	[65,380]	[184,429]
土地	(1,400,697)	(1,387,903)	(4) 処分未済持分	△ 7,233	△ 4,695
建設仮勘定	(-)	(4,860)	2 評価・換算差額等	74,497	68,077
リース資産	(31,831)	(26,659)	(1) その他有価証券評価差額金	74,497	68,077
(2) 無形固定資産	3,694	2,879	純資産の部合計	2,600,097	2,774,523
ソフトウェア	(3,441)	(2,661)			
電話加入権	(253)	(218)			
6 外部出資	765,551	757,552			
(1) 外部出資	768,551	760,491			
系統出資	(517,732)	(517,750)			
系統外出資	(172,542)	(164,465)			
子会社等出資	(78,276)	(78,276)			
(2) 外部出資等損失引当金	△ 3,000	△ 2,939			
7 前払年金費用	6,285	17,235			
資産の部合計	23,190,653	23,822,315	負債及び純資産の部合計	23,190,653	23,822,315

## ■ 損益計算書

(単位：千円)

科 目	平成30年度	令和元年度	科 目	平成30年度	令和元年度
1 事業総利益	876,339	993,939	(9) 畜産事業収益	240,112	342,103
事業収益	9,304,023	9,796,466	(10) 畜産事業費用	207,386	323,845
事業費用	8,427,684	8,802,527	畜産事業総利益	32,726	18,258
(1) 信用事業収益	158,539	164,721	(11) 市乳事業収益	6,896,916	7,328,696
資金運用収益	140,824	143,855	(12) 市乳事業費用	6,556,813	6,861,801
(うち預金利息)	(1,469)	(1,376)	市乳事業総利益	340,102	466,895
(うち受取奨励金)	(66,442)	(63,230)	(13) 施設貸貸収入	127,585	143,949
(うち有価証券利息)	(-)	(-)	(14) 施設管理直接費	75,380	81,759
(うち貸出金利息)	(67,034)	(73,034)	施設貸貸収支差額	52,205	62,190
(うちその他受入利息)	(5,879)	(6,215)	(15) 営農支援収入	1,458	1,266
役務取引等収益	7,348	8,722	(16) 営農支援支出	254	1,083
その他事業直接収益	-	-	営農支援収支差額	1,204	183
その他経常収益	10,367	12,145	(17) 家畜診療収入	98,019	111,624
(2) 信用事業費用	43,953	46,189	(18) 家畜診療支出	44,968	49,321
資金調達費用	19,880	18,266	家畜診療収支差額	53,051	62,303
(うち貯金利息)	(18,687)	(16,961)	2 事業管理費	799,832	814,362
(うち給付補填備金繰入)	(442)	(340)	(1) 人件費	577,371	605,998
(うち借入金利息)	(59)	(67)	(2) 業務費	85,007	89,180
(うちその他支払利息)	(691)	(898)	(3) 諸税負担金	20,627	19,228
役務取引等費用	3,420	3,592	(4) 施設費	112,945	96,862
その他事業直接費用	-	-	(5) その他事業管理費	3,882	3,094
その他経常費用	20,654	24,330	事業利益	76,507	179,577
(うち貸倒引当金繰入額)	(2,370)	(4,699)	3 事業外収益	44,200	42,730
(うち貸倒引当金戻入益)	(-)	(-)	(1) 受取雑利息	67	5
信用事業総利益	114,586	118,533	(2) 受取出資配当金	10,909	10,230
(3) 共済事業収益	44,386	44,677	(3) 貸貸料	10,652	9,160
共済付加収入	40,086	39,959	(4) 販売事業外収益	8,283	7,764
共済貸付金利息	48	5	(5) 貸倒引当金戻入益(事業外)	-	-
その他の収益	4,252	4,713	(6) 償却債権取立益	-	-
(4) 共済事業費用	1,418	1,240	(7) 雑収入	14,289	15,572
共済借入金利息	48	5	4 事業外費用	8,283	7,923
共済推進費	-	-	(1) 支払雑利息	-	-
共済保全費	1,374	1,239	(2) 貸倒損失	-	-
その他の費用	△ 4	△ 3	(3) 寄付金	-	-
(うち貸倒引当金繰入額)	(-)	(-)	(4) 販売事業外費用	8,283	7,764
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 4)	(△ 3)	(5) 貸倒引当金繰入額(事業外)	-	1
共済事業総利益	42,968	43,437	(6) 雑損失	-	158
(5) 購買事業収益	1,498,389	1,534,147	経常利益	112,425	214,384
購買品供給高	1,495,674	1,531,808	5 特別利益	112,620	26,913
その他の収益	2,714	2,339	(1) 固定資産処分益	103,108	26,913
(6) 購買事業費用	1,407,037	1,438,860	(2) その他の特別利益	9,512	-
購買品供給原価	1,281,723	1,309,034	6 特別損失	137,320	8,719
その他の費用	125,314	129,826	(1) 固定資産処分損	8,546	8,719
(うち貸倒引当金繰入額)	(14)	(212)	(2) 固定資産圧縮損	-	-
(うち貸倒引当金戻入益)	(-)	(-)	(3) 減損損失	73,157	-
購買事業総利益	91,352	95,288	(4) 災害損失	55,617	-
(7) 販売事業収益	238,619	250,869	(5) その他の特別損失	-	-
販売手数料	55,342	56,209	税引前当期利益	87,724	232,579
受入集乳費	179,616	191,273	法人税・住民税及び事業税	(42,034)	(24,625)
その他の収益	3,661	3,386	過年度法人税追徴税額	(-)	(-)
(8) 販売事業費用	90,475	124,016	法人税等調整額	△ 19,689	(23,525)
販売費	66,764	113,112	法人税等合計	22,344	48,150
その他の費用	23,711	10,905	当期剰余金	65,380	184,429
(うち貸倒引当金繰入額)	(-)	(1,264)	当期首繰越剰余金	16,653	16,002
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 93)	(-)	任意積立金取崩額	-	-
販売事業総利益	148,144	126,853	当期未処分剰余金	82,033	200,431

## ■ 剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	平成30年度	令和元年度
1 当期末処分剰余金	82,032	200,431
2 任意積立金取崩額	-	-
3 剰余金処分額	66,030	188,332
(1) 利益準備金	(18,000)	(70,000)
(2) 任意積立金	(15,000)	(47,000)
(3) 出資配当金	(12,505)	(12,670)
(4) 事業分量配当金	(20,525)	(58,662)
4 次期繰越剰余金	16,002	12,099

注) 1. 出資配当金の配当率は、次のとおりです。

平成30年度	1.0%	令和元年度	1.0%
--------	------	-------	------

2. 次期繰越剰余金には営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための以下の繰越額が含まれています。

平成30年度	4,000千円	令和元年度	9,222千円
--------	---------	-------	---------

3. 任意積立金における目的積立金の積み立て目的及び積立目標額、取崩基準等は以下のとおりです。

種類	積立目的	積立目標金額	取崩基準
金融事業基盤強化積立金	①将来の金利変動リスクに対応する財源確保 ②将来の貸付リスクに対する財源確保	毎事業年度末の貯金残高の20/1000	次の事由が生じた場合、理事会に付議した上で取り崩すものとする。 ①コストを低減するためのマーケティング調査に係る支出 ②コストを低減するための資産の取得 ③金利変動リスクに対する支出 ④不健全債権の直接償却もしくは間接償却
事業強化対策準備積立金	①各事業施設の整備・修繕に係る支出 ②各事業の強化対策に係る支出 ③口蹄疫など伝染病発生に伴う地域予防、経営安定対策に係る支出	毎事業年度末の有形減価償却資産取得残高の10/100	積立目的①～③の事由が発生した時は、理事会に付議した上で取り崩すものとする。
配当平均積立金	毎期の出資配当率を安定させるため、出資配当財源が少ない場合に支出	毎事業年度末の出資金残高の10/100	積立目的の事由が発生した時は、通常総会の決議により取り崩すものとする。
農林年金対策積立金	農林年金の支出に備えるために積み立てる	1億2千万円	積立目的の事由が発生した時は、理事会に付議した上で取り崩すものとする

## 平成 30 年度【注記表】

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券(株式形態の外部出資を含む)の評価基準及び評価方法

- |            |   |
|------------|---|
| ①満期保有目的の債券 | 該当ありません   |
| ②子会社株式     | 移動平均法による原価法   |
| ③その他有価証券   |   |
| 〔時価のあるもの〕  | 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| 〔時価のないもの〕  | 移動平均法による原価法   |

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- |           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| ①購買品      | 移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）   |
| ②販売品      |                                  |
| ・製品及び商品   | 移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）   |
| ・その他の販売品  | 最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) |
| ③その他の棚卸資産 |                                  |
| ・原材料及び貯蔵品 | 移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）   |
| ・肥育牛      | 個別法による低価法                        |

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産（リース資産を除く）  
定率法（ただし、平成 10 年 4 月 1 日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに市乳工場等の機械及び一部備品及び平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法)を採用しています。
- ②無形固定資産(リース資産を除く)  
定額法。なお、自組合利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間(5 年)に基づく定額法により償却しています。
- ③リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている経理規程、償却・引当基準により、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。

上記以外の債権については、貸倒実績率等で算出した額を計上しております。

すべての債権は、資産査定要領および自己査定マニュアルに基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

##### ②外部出資等損失引当金

当組合の外部出資先への出資に係る損失に備えるため、出資形態が株式のものについては有価証券と同様の方法により、株式以外のものについては貸出債権と同様の方法により、必要と認められる額を計上しています。

#### (5) 収益及び費用の計上基準

##### ①貸手側のファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

貸手となっている所有権移転ファイナンス・リース取引は、リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(6) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引で、会計基準適用初年度開始前に取引を行ったものについては、通常の貸借借処理に準じた会計処理によっております。

(7) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しています。

(8) 記載金額の端数処理

記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しており、金額五百円未満の科目については「0」で表示しています。また、期末残高のない勘定科目は「-」で表示しております。

## 2. 貸借対照表関係

(1) 資産に係る圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は 246,642 千円であり、その内訳は次の通りです。

建物構築物 194,397 千円、機械装置 42,707 千円、工具器具備品 9,538 千円

(2) 担保に供されている資産

以下の資産は、子会社株式会社ミルクの郷が北海道信用農業協同組合連合会から借用した設備借入金 14,104 千円の担保に供しております。

定期預金 150,000 千円の全部

(3) 子会社等に対する金銭債権及び金銭債務

子会社等に対する金銭債権の総額 608,415 千円

子会社等に対する金銭債務の総額 763,069 千円

(4) 役員に対する金銭債権・債務の総額

理事、監事に対する金銭債権の総額 該当ありません

理事、監事に対する金銭債務の総額 該当ありません

なお、注記すべき金銭債権・金銭債務は、農協法 35 条の 2 第 2 項の規定により理事会の承認が必要とされる取引を想定しており、以下の取引は除いて記載しております。

イ 金銭債権については、総合口座取引における当座貸越、貯金を担保とする貸付金(担保とされた貯金総額を超えないものに限る)、その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ロ 金銭債務については、貯金、共済契約その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ハ 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他職務遂行の対価として組合から受ける財産上の利益をいう。)の給付

(5) 貸出金に含まれるリスク管理債権

① 貸出金のうち、破綻先債権は 2,374 千円・延滞債権は該当ありません。

なお、「破綻先債権」とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税施行令第 96 条第 1 項第 3 号イからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金であって破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸出金です。

② 貸出金のうち、3 か月以上延滞債権額は該当ありません。

なお、「3 か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から 3 か月以上遅延している貸出金(破綻先債権及び延滞債権を除く)です。

③ 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は該当ありません。

なお、「貸出条件緩和債権」とは、債務者の再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 か月以上延滞債権に該当しないものです。

④ ①～③の合計額は 2,374 千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

### 3. 損益計算書関係

(1) 子会社等との取引高の総額	収 益	費 用
子会社等との取引による総額	213,820 千円	5,621,973 千円
うち事業取引高	202,138 千円	5,591,365 千円
うち事業取引以外の取引高	11,682 千円	30,608 千円

#### (2) 減損損失の状況

##### ① 当期において減損損失を認識した資産又は資産グループの概要

部 門	場 所	種 類	備 考
経 済 部	千 歳 市 駒 里 2 2 1 6	土 地 建物構築物	千歳牧場
総 務 部	札幌市東区苗穂町 3 丁目 3 番 7 号	電話加入権	8 回線
市乳事業部	札幌市東区丘珠町 573 番地 27		3 回線

##### ② 減損損失の認識に至った経緯

恵庭事務所閉鎖並びに光回線への切替に伴う通信回線の休止及び千歳牧場を閉鎖する方針の決定により、当該資産が減損の兆候に該当したため減損損失の認識の判定を行ったところ、時価の著しい下落が認められたので、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

##### ③ 減損損失の金額及び主な固定資産の種類毎の当該金額の内訳

部 門	土 地	建物構築物	電話加入権	合 計
総 務 部	—	—	303,600 円	303,600 円
経 済 部	27,582,864 円	45,038,332 円	—	72,621,196 円
市乳事業部	—	—	232,200 円	232,200 円
合 計	27,582,864 円	45,038,332 円	535,800 円	73,156,996 円

##### ④ 回収可能額に関する事項

土地の回収可能価額は不動産鑑定評価により算定し、建物構築物の回収可能価額は収益還元法により測定しております。また、電話加入権の回収可能価額は相続税評価額により算定しております。

#### (3) 棚卸資産評価の状況

畜産事業費用には、低価法による洗い替えにより、前期肉用牛評価損戻入益 18,947 千円と当期肉用牛評価損繰入損 2,622 千円が含まれております。

#### (4) 出向人件費

出向者に対する人件費と出向先からの受入人件費は同額(119,150 千円)で相殺処理しております。

### 4. 金融商品関係

#### (1) 金融商品の状況に関する事項

##### ① 金融商品に対する取組方針

組合員や地域から預かった貯金を原資に、組合員などへ貸付け、残った余裕金を北海道信用農業協同組合連合会などへ預けています。

##### ② 金融商品の内容及びそのリスク

保有する金融資産は、主として組合員等に対する貸出金であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

##### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

###### イ 信用リスクの管理

個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、財務管理室が与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与

信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

ロ 市場リスクの管理

金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

市場リスクに係る定量的情報(トレーディング目的以外の金融商品)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、有価証券のうちその他有価証券に分類している債券、貯金及び借入金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が 0.20% 上昇したものと想定した場合には、経済価値が 57,541 千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

ハ 資金調達に係る流動性リスクの管理

資金繰りリスクについては、運用・調達について安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性(換金性)を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価(時価に代わるものを含む)には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額(これに準ずる価額を含む)が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価に関する事項

① 金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず③に記載しております。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預金	12,298,013	12,295,896	△2,117
貸出金	5,373,765		
貸倒引当金(*1)	△14,201		
貸倒引当金控除後	5,359,564	5,709,261	349,697
経済事業未収金	1,218,817		
貸倒引当金(*2)	△3,314		
貸倒引当金控除後	1,215,503	1,215,503	-
経済受託債権	437,053		
貸倒引当金(*3)	△16		
貸倒引当金控除後	437,037	437,037	-
外部出資	153,972	153,972	-
資 産 計	19,464,089	19,811,669	347,580

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
貯金	18,669,242	18,691,011	21,769
経済事業未払金	723,085	723,085	-
経済受託債務	321,173	321,173	-
負 債 計	19,713,500	19,735,269	21,769

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(\*2) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(\*3) 経済受託債権に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

## ② 金融商品の時価の算定方法

### 【資産】

#### イ 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しております。

#### ロ 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しております。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としております。

#### ハ 経済事業未収金及び経済受託債権

経済事業未収金及び経済受託債権については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としております。

#### ニ 外部出資

株式は取引所の価格によっております。

### 【負債】

#### イ 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。

また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しております。

#### ロ 経済事業未払金及び経済受託債務

経済事業未払金及び経済受託債務については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、帳簿価額によっております。

## ③ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれておりません。

	貸借対照表計上額
外部出資(*)	614,579 千円
外部出資等損失引当金	△3,000 千円
引当金控除後	611,579 千円

(\*) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしておりません。

④ 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額 (単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	12,298,013	-	-	-	-	-
貸出金(*1)	823,629	391,378	295,553	272,839	242,523	3,347,843
経済事業未収金(*2)	1,218,469	-	-	-	-	-
経済受託債権	437,053	-	-	-	-	-
合計	14,777,164	391,378	295,553	272,839	242,523	3,347,843

(\*1) 貸出金のうち、当座貸越 25,217 千円については「1年以内」に含めております。

(\*2) 経済事業未収金のうち、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等 348 千円は償還の予定が見込まれないため、含めておりません。

⑤ 借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額 (単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*)	14,254,045	2,964,680	1,300,053	127,831	22,633	-
経済事業未払金	723,085	-	-	-	-	-
経済受託債務	321,173	-	-	-	-	-
合計	15,298,303	2,964,680	1,300,053	127,831	22,633	-

(\*) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めて開示しております。

## 5. 有価証券関係

有価証券には、「外部出資」に含まれる株式が含まれております。

(1) 有価証券の時価、評価差額に関する事項

① その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	51,033 千円	153,972 千円	102,939 千円
合計		51,033 千円	153,972 千円	102,939 千円

なお、上記評価差額から繰延税金負債 28,442 千円を差し引いた額 74,497 千円が「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(2) 当期中に売却したその他有価証券

該当ありません

(3) 有価証券の減損処理の状況

該当ありません

## 6. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づき日本生命保険相互会社との契約による確定給付企業年金制度を採用しております。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(2) 前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における前払年金費用	3,543 千円	
①退職給付費用	△ 48,773 千円	
②年金資産(確定給付企業年金制度)への拠出金	51,515 千円	
調整額合計	2,742 千円	①+②
期末における前払年金費用	6,285 千円	期首+調整額

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された前払年金費用の調整表

①退職給付債務	△673,455 千円
②年金資産(確定給付型年金制度)	679,740 千円
③未積立退職給付債務	6,285 千円 ①+②
④貸借対照表計上額純額	6,285 千円 ③
⑤前払年金費用	6,285 千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

①簡便法で計算した退職給付費用	48,773 千円
-----------------	-----------

(5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 8,246 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された平成 30 年 3 月現在における平成 44 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、101,926 千円となっています。

## 7. 税効果会計関係

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	103 千円
外部出資等損失引当金	829 千円
減損損失否認額	68,548 千円
未払費用否認額	2,343 千円
その他	1,955 千円
繰延税金資産小計	73,778 千円
評価性引当額	△48,483 千円
繰延税金資産合計(A)	25,295 千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△1,737 千円
その他有価証券評価差額金	△28,442 千円
繰延税金負債合計(B)	△30,179 千円
繰延税金負債の純額(A)+(B)	△4,883 千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の重要な差異

法定実効税率	27.62%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.88%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.10%
事業分量配当金	△6.46%
住民税均等割等	4.85%
評価性引当額の増減	0.17%
その他	△0.49%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.47%

## 8. 重要な後発事象

該当ありません。

## 9. その他の注記

(1) リース取引に関する会計基準に基づく事項

賃貸借処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引の内容は、次の通りです。

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	機械装置	工具器具備品	車両運搬具	合 計
取得価額相当額	22,174 千円	45,538 千円	25,332 千円	93,044 千円
減価償却累計額相当額	6,496 千円	19,703 千円	13,055 千円	39,254 千円
期末残高相当額	15,678 千円	25,835 千円	12,277 千円	53,790 千円

② 未経過リース料期末残高相当額

	1 年以内	1 年超	合 計
未経過リース料期末残高相当額	16,461 千円	37,329 千円	53,790 千円

③ 当期の支払リース料、減価償却費相当額、支払利息相当額

支払リース料	18,035 千円
減価償却相当額	18,035 千円
支払利息相当額	—

④ 減価償却相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

⑤ 支払利息相当額の算定方法

未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

## 令和元年度【注記表】

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券(株式形態の外部出資を含む)の評価基準及び評価方法

- |           |   |
|-----------|---|
| ①子会社株式    | 移動平均法による原価法   |
| ②その他有価証券  |   |
| 〔時価のあるもの〕 | 期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) |
| 〔時価のないもの〕 | 移動平均法による原価法   |

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- |                |                                |
|----------------|--------------------------------|
| ①購買品           | 移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) |
| ②販売品           | 移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) |
| ③その他の棚卸資産(原材料) | 移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) |
| ④その他の棚卸資産(貯蔵品) | 移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) |

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産(リース資産を除く)
- 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに市乳工場等の機械及び一部備品及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法)を採用しています。
- ②無形固定資産(リース資産を除く)
- 定額法。なお、自組合利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間(5年)に基づく定額法により償却しています。
- ③リース資産
- リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている経理規程、償却・引当基準により、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。

上記以外の債権については、貸倒実績率等で算出した額を計上しております。

すべての債権は、資産査定要領および自己査定マニュアルに基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

##### ②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度に発生していると認められる額を計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

##### ③外部出資等損失引当金

当組合の外部出資先への出資に係る損失に備えるため、出資形態が株式のものについては有価証券と同様の方法により、株式以外のものについては貸出債権と同様の方法により、必要と認められる額を計上しています。

#### (5) 収益及び費用の計上基準

##### ①貸手側のファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

貸手となっている所有権移転ファイナンス・リース取引は、リース取引開始日に売上高と売上原価を計

上する方法によっております。

#### (6) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引で、会計基準適用初年度開始前に取引を行ったものについては、通常の賃貸借処理に準じた会計処理によっております。

#### (7) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しています。

#### (8) 記載金額の端数処理

記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しており、金額五百円未満の科目については「0」で表示しています。また、期末残高のない勘定科目は「-」で表示しております。

### 2. 表示方法の変更

#### (1) 損益計算書の事業収益及び事業費用の追加

農業協同組合法施行規則の改正に伴い、損益計算書に各事業ごとの収益及び費用を合算し、各事業相互間の内部損益を除去した「事業収益」「事業費用」を損益計算書に表示しています。

### 3. 貸借対照表関係

#### (1) 資産に係る圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は 246,177 千円であり、その内訳は次の通りです。

建物構築物 193,974 千円、機械装置 42,665 千円、工具器具備品 9,538 千円

#### (2) 子会社等に対する金銭債権及び金銭債務

子会社等に対する金銭債権の総額 570,983 千円

子会社等に対する金銭債務の総額 688,198 千円

#### (3) 役員に対する金銭債権・債務の総額

理事、監事に対する金銭債権の総額 該当ありません

理事、監事に対する金銭債務の総額 該当ありません

なお、注記すべき金銭債権・金銭債務は、農協法 35 条の 2 第 2 項の規定により理事会の承認が必要とされる取引を想定しており、以下の取引は除いて記載しております。

イ 金銭債権については、総合口座取引における当座貸越、貯金を担保とする貸付金(担保とされた貯金総額を超えないものに限る)、その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ロ 金銭債務については、貯金、共済契約その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ハ 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他職務遂行の対価として組合から受ける財産上の利益をいう。)の給付

#### (4) 貸出金に含まれるリスク管理債権

① 貸出金のうち、破綻先債権は 0 千円・延滞債権は 2,549 千円です。

なお、「破綻先債権」とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税施行令第 96 条第 1 項第 3 号イからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金であって破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸出金です。

② 貸出金のうち、3 か月以上延滞債権額は該当ありません。

なお、「3 か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から 3 か月以上遅延している貸出金(破綻先債権及び延滞債権を除く)です。

③ 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は該当ありません。

なお、「貸出条件緩和債権」とは、債務者の再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 か月以上延滞債権に該当しないものです。

④ ①～③の合計額は2,549千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

#### 4. 損益計算書関係

(1) 子会社等との取引高の総額	収 益	費 用
子会社等との取引による総額	183,485 千円	5,925,469 千円
うち事業取引高	172,301 千円	5,882,861 千円
うち事業取引以外の取引高	11,184 千円	42,608 千円

#### (2) 減損損失の状況

該当ありません。

#### (3) 棚卸資産評価の状況

畜産事業費用には、低価法による洗い替えにより、前期肉用牛評価損戻入益2,622千円が含まれております。

#### (4) 追加情報

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しております。

#### 5. 金融商品関係

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

###### ① 金融商品に対する取組方針

組合員や地域から預かった貯金を原資に、組合員などへ貸付け、残った余裕金を北海道信用農業協同組合連合会などへ預けています。

###### ② 金融商品の内容及びそのリスク

保有する金融資産は、主として組合員等に対する貸出金であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

###### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

###### イ 信用リスクの管理

個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、財務管理室が与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

###### ロ 市場リスクの管理

金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

##### 市場リスクに係る定量的情報(トレーディング目的以外の金融商品)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、有価証券のうちその他有価証券に分類している債券、貯金及び借入金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.20%上昇したものと想定した場合には、経済価値が103,305千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

#### ハ 資金調達に係る流動性リスクの管理

資金繰りリスクについては、運用・調達について安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性(換金性)を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

#### ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価(時価に代わるものを含む)には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額(これに準ずる価額を含む)が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

### (2) 金融商品の時価に関する事項

#### ① 金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず③に記載しております。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預金	11,773,983	11,773,992	9
貸出金	6,741,177		
貸倒引当金(*1)	△18,912		
貸倒引当金控除後	6,722,265	7,350,435	628,170
経済事業未収金	1,204,223		
貸倒引当金(*2)	△3,269		
貸倒引当金控除後	1,200,954	1,200,954	-
経済受託債権	461,351		
貸倒引当金(*3)	△1,294		
貸倒引当金控除後	460,057	460,057	-
外部出資	145,895	145,895	-
資 産 計	20,303,154	20,931,333	628,179
貯金	19,034,767	19,052,930	18,163
経済事業未払金	719,226	719,226	-
経済受託債務	333,373	333,373	-
負 債 計	20,087,366	20,105,529	18,163

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(\*2) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(\*3) 経済受託債権に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

#### ② 金融商品の時価の算定方法

##### 【資産】

##### イ 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しております。

##### ロ 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリス

クフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しております。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としております。

ハ 経済事業未収金及び経済受託債権

経済事業未収金及び経済受託債権については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としております。

ニ 外部出資

株式は取引所の価格によっております。

【負債】

イ 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。

また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しております。

ロ 経済事業未払金及び経済受託債務

経済事業未払金及び経済受託債務については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、帳簿価額によっております。

③ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれておりません。

	貸借対照表計上額
外部出資(*)	614,596 千円
外部出資等損失引当金	△2,939 千円
引当金控除後	611,657 千円

(\*) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしておりません。

④ 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額 (単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	11,773,983	-	-	-	-	-
貸出金(*)	980,175	406,200	352,708	324,473	302,297	4,375,324
経済事業未収金	1,204,223	-	-	-	-	-
経済受託債権	461,351	-	-	-	-	-
合計	14,419,732	406,200	352,708	324,473	302,297	4,375,324

(\*) 貸出金のうち、当座貸越 24,913 千円については「1年以内」に含めております。

⑤ 借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額 (単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*)	15,142,145	1,319,879	1,326,591	25,858	1,220,294	-
経済事業未払金	719,226	-	-	-	-	-
経済受託債務	333,373	-	-	-	-	-
合計	16,194,744	1,319,879	1,326,591	25,858	1,220,294	-

(\*) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めて開示しております。

6. 有価証券関係

有価証券には、「外部出資」に含まれる株式が含まれております。

(1) 有価証券の時価、評価差額に関する事項

① その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	51,840 千円	145,895 千円	94,055 千円
合計		51,840 千円	145,895 千円	94,055 千円

なお、上記評価差額から繰延税金負債 25,978 千円を差し引いた額 68,077 千円が「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(2) 当期中に売却したその他有価証券

該当ありません

(3) 有価証券の減損処理の状況

該当ありません

## 7. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づき日本生命保険相互会社との契約による確定給付企業年金制度を採用しております。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(2) 前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における前払年金費用	6,285 千円
①退職給付費用	△ 54,952 千円
②年金資産(確定給付企業年金制度)への拠出金	65,902 千円
調整額合計	10,950 千円 ①+②
期末における前払年金費用	17,235 千円 期首+調整額

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された前払年金費用の調整表

①退職給付債務	△718,663 千円
②年金資産(確定給付型年金制度)	735,898 千円
③未積立退職給付債務	17,235 千円 ①+②
④貸借対照表計上額純額	17,235 千円 ③
⑤前払年金費用	17,235 千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

①簡便法で計算した退職給付費用	54,952 千円
-----------------	-----------

(5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 8,408 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された平成 31 年 3 月現在における令和 14 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、98,691 千円となっています。

## 8. 税効果会計関係

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産	
外部出資等損失引当金	812 千円
減損損失否認額	48,465 千円
未払費用否認額	2,776 千円
その他	1,206 千円
繰延税金資産小計	53,259 千円

評価性引当額	△48,465 千円
繰延税金資産合計(A)	4,794 千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△4,760 千円
その他有価証券評価差額金	△25,978 千円
繰延税金負債合計(B)	△30,738 千円
繰延税金負債の純額(A)+(B)	△25,944 千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の重要な差異

法定実効税率	27.62%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.73%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.70%
事業分量配当金	△6.97%
住民税均等割等	1.81%
各種税額控除等	△1.60%
その他	△0.18%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	20.71%

9. 重要な後発事象

該当ありません。

10. その他の注記

(1) リース取引に関する会計基準に基づく事項

賃貸借処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引の内容は、次の通りです。

① リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	機械装置	工具器具備品	車両運搬具	合 計
取得価額相当額	29,347 千円	37,743 千円	20,034 千円	87,124 千円
減価償却累計額相当額	8,476 千円	12,889 千円	10,377 千円	31,742 千円
期末残高相当額	20,871 千円	24,854 千円	9,657 千円	55,382 千円

② 未経過リース料期末残高相当額

	1 年以内	1 年超	合 計
未経過リース料期末残高相当額	17,510 千円	37,872 千円	55,382 千円

③ 当期の支払リース料、減価償却費相当額、支払利息相当額

支払リース料	18,463 千円
減価償却相当額	18,463 千円
支払利息相当額	—

④ 減価償却相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

⑤ 支払利息相当額の算定方法

未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

■ 部門別損益計算書

【平成30年度】

(単位：千円)

区 分	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	営農指導事業	共通管理費等
事業収益 ①	9,304,023	158,539	44,386	9,001,621	99,477	
事業費用 ②	8,427,684	43,953	1,418	8,337,091	45,222	
事業総利益③ (①-②)	876,339	114,586	42,968	664,530	54,256	
事業管理費④	799,832	96,820	24,641	593,970	84,401	
うち人件費	577,371	90,604	22,204	387,281	77,282	
うち業務費	85,007	19,045	2,397	59,690	3,874	
うち諸税負担金	20,627	1,833	539	17,386	869	
うち施設費	112,945	5,678	1,352	102,484	3,431	
(うち減価償却費⑤)	52,213	2,231	420	48,916	647	
うちその他事業管理費	3,882	△ 20,340	△ 1,851	27,129	△ 1,056	
※うち共通管理費等⑥		17,048	4,851	112,270	4,436	△ 138,605
(うち減価償却費⑦)		1,475	420	9,716	384	△ 11,995
事業利益 ⑧ (③-④)	76,507	17,765	18,328	70,560	△ 30,145	
事業外収益 ⑨	44,200	4,325	1,231	28,907	9,738	
うち共通分 ⑩		4,325	1,231	28,480	1,125	△ 35,161
事業外費用 ⑪	8,283	-	-	-	8,283	
うち共通分 ⑫		-	-	-	-	
経常利益 ⑬ (⑧+⑨-⑪)	112,425	22,090	19,558	99,467	△ 28,690	
特別利益 ⑭	112,620	12,804	3,643	92,842	3,331	
うち共通分 ⑮		12,804	3,643	84,316	3,331	△ 104,094
特別損失 ⑯	137,320	38	11	137,262	10	
うち共通分 ⑰		38	11	250	10	△ 308
税引前当期利益 ⑱ (⑬+⑭-⑯)	87,724	34,855	23,191	55,047	△ 25,369	
営農指導事業分配額 ⑲		-	-	25,369	△ 25,369	
営農指導事業分配後 税引前当期利益 ⑳ (⑱-⑲)	87,724	34,855	23,191	29,678		

※⑥⑩⑮⑰は、各課に直課できない部分。

【令和元年度】

(単位：千円)

区 分	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	営農指導事業	共通管理費等
事業収益 ①	9,922,053	164,721	44,677	9,599,765	112,890	
事業費用 ②	8,928,114	46,189	1,240	8,830,281	50,404	
事業総利益③ (①-②)	993,939	118,533	43,437	769,484	62,486	
事業管理費④	814,362	103,389	24,322	589,651	97,000	
うち人件費	605,998	92,889	20,637	403,785	88,686	
うち業務費	89,180	18,352	3,221	63,383	4,224	
うち諸税負担金	19,228	1,819	433	16,168	808	
うち施設費	96,862	7,459	1,708	83,210	4,486	
(うち減価償却費⑤)	17,669	1,759	263	15,193	454	
うちその他事業管理費	3,094	△ 17,130	△ 1,677	23,105	△ 1,204	
※うち共通管理費等⑥		17,325	4,545	115,027	5,112	△ 142,009
(うち減価償却費⑦)		1,003	263	6,661	296	△ 8,224
事業利益 ⑧ (③-④)	179,577	15,143	19,115	179,833	△ 34,514	
事業外収益 ⑨	42,730	3,953	1,037	28,397	9,343	
うち共通分 ⑩		3,953	1,037	26,243	1,166	△ 32,398
事業外費用 ⑪	7,923	-	-	159	7,764	
うち共通分 ⑫		-	-	1	-	△ 1
経常利益 ⑬ (⑧+⑨-⑪)	214,384	19,096	20,151	208,071	△ 32,934	
特別利益 ⑭	26,913	-	-	26,913	-	
うち共通分 ⑮		-	-	-	-	
特別損失 ⑯	8,719	62	16	8,621	18	
うち共通分 ⑰		62	16	415	18	△ 512
税引前当期利益 ⑱ (⑬+⑭-⑯)	232,579	19,033	20,135	226,363	△ 32,953	
営農指導事業分配額 ⑲		-	-	32,953	△ 32,953	
営農指導事業分配後 税引前当期利益 ⑳ (⑱-⑲)	232,579	19,033	20,135	193,410		

※⑥⑩⑮⑰は、各課に直課できない部分。

1. 共通管理費等及び営農指導事業の他部門への配賦基準等は、次のとおりです。

年度	共通管理費等 営農指導事業	人頭割、人件費を除いた事業管理費割、粗利益割 全額を農業関連事業に配賦
平成30年度		
令和元年度		

2. 配賦割合 (1の配賦基準で算出した配賦の割合)

(単位：%)

	信用事業	共済事業	農業関連事業	営農指導事業	計
平成30年度	12.30	3.50	81.00	3.20	100.00
	-	-	100.00	-	100.00
令和元年度	12.20	3.20	81.00	3.60	100.00
	-	-	100.00	-	100.00

3. 部門別の資産

(単位：千円)

	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	営農指導事業	共有資産
事業別の資産	23,822,315	18,534,429	1,365	2,600,143	331,331	2,355,047
総資産 (共通資産配分後)	23,822,315	18,821,745	76,727	4,507,731	416,112	
(うち固定資産)	2,293,054	182,937	47,769	2,008,371	53,977	

# Ⅲ. 信用事業

## 1. 信用事業の考え方

### ① 貸出運営の考え方

当組合では農家生活の向上や農業生産力の増強など、農業及び地域経済の発展を支えるべく、組合員の必要とする資金の貸出しを行っております。

貸付にあたっては、みなさまからお預かりした貯金を原資に貸付けを行っており、一部の組合員だけにかたよらないように、一組合員当たりの貸付限度を毎年設定し、貸出先の適正な審査を実施しております。また、併せて地域のみなさまの生活にお役に立つよう資金の貸出しの推進も積極的に行っております。

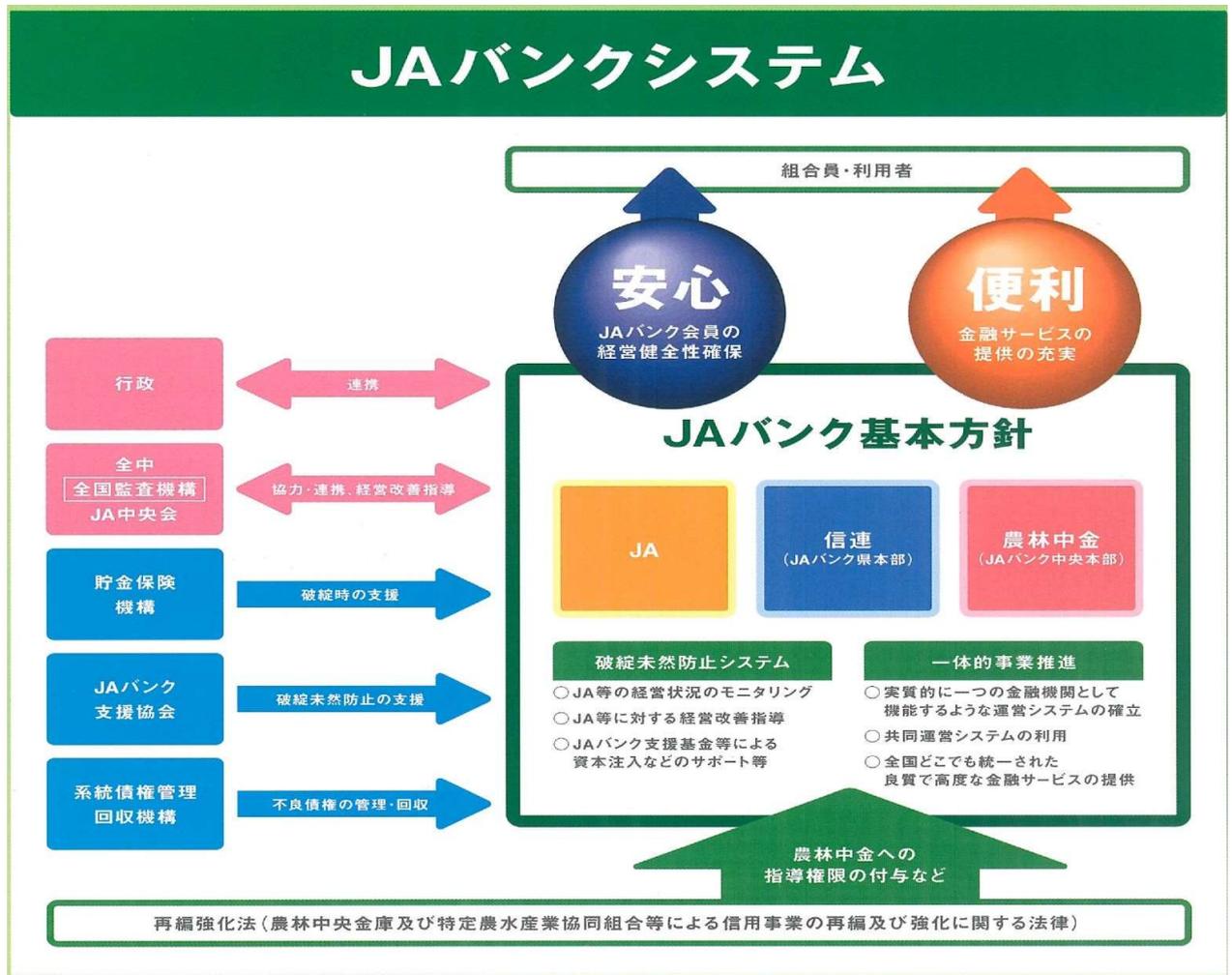
### ② JAバンクシステムについて

JAバンクシステムとは、ペイオフ解禁や金融大競争時代に柔軟に対応し、より便利で安心なJAバンクになるため、全国のJA・信連・農林中央金庫の総合力を結集し、JAバンク法※1に基づいた、実質的に「ひとつの金融機関」※2として活動していく新たな取組のことであります。

このJAバンクシステムを活用し、全体の高度化、専門化などを進め、組合員・利用者の皆さまの満足度をより高めていきます。

※1 JAバンク法(再編強化法)・・「JAバンクシステム」が確実に機能し、JAバンク全体としての信頼性の向上のための法制度面での裏づけとして整備された法律です。

※2 ひとつの金融機関…………… JAバンクはJAバンク会員(JA・都道府県段階での信連・農林中央金庫)で構成されるグループ名です。JAバンクはグループ全体のネットワークと総合力で、組合員、利用者の皆さまに、より身近でより便利なメインバンクとなることを目指しています。



## 2. 信用事業の状況

### 利益総括表

(単位:百万円、%)

	30年度	元年度	増減
資金運用収支	121	126	5
役務取引等収支	4	5	1
その他信用事業収支	△ 10	△ 12	△ 2
信用事業粗利益	115	119	4
信用事業粗利益率	0.65	0.65	0.00
事業粗利益	876	994	118
事業粗利益率	3.75	4.14	0.39

注1) 事業粗利益は、全事業の事業総利益の合計額です。

注2) 信用事業粗利益率(%)は次の算式により計算しております。

[信用事業粗利益/信用事業資産(債務保証見返を除く)平均残高×100]

注3) 事業粗利益率(%)は次の算式により計算しております。

[事業粗利益/総資産(債務保証見返を除く)平均残高×100]

### 資金運用収支の内訳

(単位:百万円、%)

	30年度			元年度		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	17,561	135	0.77	18,288	138	0.75
うち預金	12,676	68	0.54	12,210	65	0.53
うち有価証券	-	-	-	-	-	-
うち貸出金	4,885	67	1.37	6,078	73	1.20
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金調達勘定	18,617	19	0.10	19,080	17	0.09
うち貯金・定期積金	18,608	19	0.10	19,062	17	0.09
うち借入金	9	0	0.63	18	0	0.38
総資金利ざや			0.04			0.03

注1) 総資金利ざやは、次の算式により計算しております。

[資金運用利回り－資金調達原価(資金調達利回り+経費率)]

注2) 経費率は、次の算式により計算しております。

[信用部門の事業管理費/資金調達勘定(貯金・定期積金+借入金)平均残高×100]

注3) 預金の利息には受取奨励金を含みます。

## ■ 受取・支払利息の増減額

(単位:百万円)

	30年度増減額	元年度増減額
受取利息	2	3
うち預金	0	△ 3
うち有価証券	-	-
うち貸出金	2	6
支払利息	△ 1	△ 1
うち貯金・定期積金	△ 1	△ 2
うち譲渡性貯金	-	-
うち借入金	0	0
差し引き	3	4

注1) 増減額は前年度対比です

## ■ 利益率

(単位:%)

	30年度増減額	元年度増減額	増減
総資産経常利益率	0.48	0.89	0.41
資本経常利益率	4.43	8.15	3.72
総資産当期純利益率	0.28	0.77	0.49
資本当期純利益率	2.57	7.01	4.44

注1) 次の算式により計算しております。

総資産経常利益率 = 経常利益 / 総資産(債務保証見返を除く)平均残高 × 100

資本経常利益率 = 経常利益 / 純資産勘定平均残高 × 100

総資産当期純利益率 = 当期純利益(税引後) / 総資産(債務保証見返を除く)平均残高 × 100

資本当期純利益率 = 当期純利益(税引後) / 純資産勘定平均残高 × 100

### 3. 貯金に関する指標

#### 科目別貯金平均残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
流動性貯金	3,358 (18.0%)	3,654 (19.2%)	296
定期性貯金	15,250 (82.0%)	15,408 (80.8%)	158
その他の貯金	- (-)	- (-)	-
計	18,608 (100.0%)	19,062 (100.0%)	454
譲渡性貯金	- (-)	- (-)	-
合計	18,608 (100.0%)	19,062 (100.0%)	454

注1) 流動性貯金=当座貯金+普通貯金+貯蓄貯金+通知貯金

注2) 定期性貯金=定期貯金+定期積金+据置貯金+出資予約貯金

注3) ( )内は構成比です。

#### 定期貯金残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
定期貯金	14,867 (100.0%)	14,865 (100.0%)	△ 2
うち固定金利定期	14,867 (100.0%)	14,865 (100.0%)	△ 2
うち変動金利定期	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0

注1) 固定金利定期:預入時に満期日までの利率が確定する定期貯金

注2) 変動金利定期:預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期貯金

注3) ( )内は構成比です。

#### 貯金者別貯金残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
組合員貯金	16,089 (86.2%)	16,456 (86.5%)	367
組合員以外の貯金	2,580 (13.8%)	2,579 (13.5%)	△ 1
うち地方公共団体	- (-)	- (-)	-
うちその他非営利法人	108 (0.6%)	111 (0.6%)	3
うちその他員外	2,472 (13.2%)	2,468 (13.0%)	△ 4
合計	18,669 (100.0%)	19,035 (100.0%)	366

注1) ( )内は構成比です。

#### 4. 貸出金等に関する指標

##### ■ 科目別貸出金平均残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
手形貸付	294	378	62
証書貸付	4,570	5,675	649
当座貸越	21	25	2
割引手形	-	-	-
合計	4,885	6,078	1,193

##### ■ 貸出金の金利条件別内訳

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
固定金利貸出残高	3,716	5,028	1,312
固定金利貸出構成比	69.1%	74.6%	5.5%
変動金利貸出残高	1,658	1,713	55
変動金利貸出構成比	30.9%	25.4%	△ 5.5%
残高合計	5,374	6,741	1,367

##### ■ 貸出先別貸出金残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
組合員貸出	4,876 (90.7%)	6,298 (93.4%)	1,422
組合員以外の貸出	498 (9.3%)	443 (6.6%)	△ 55
うち地方公共団体	- (-)	- (-)	-
うちその他非営利法人	- (-)	- (-)	-
うちその他員外	498 (100.0%)	443 (100.0%)	△ 55
合計	5,374 (100.0%)	6,741 (100.0%)	1,367

注1) ( )内は構成比です。

■ 貸出金の担保別内訳

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
貯 金 等	358	390	32
有 価 証 券	-	-	-
動 産	-	-	-
不 動 産	734	619	△ 115
そ の 他 担 保 物			-
計	1,092	1,009	△ 83
農 業 信 用 基 金 協 会 保 証	1,293	2,237	944
そ の 他 保 証	2,890	3,387	497
計	4,183	5,624	1,441
信 用	99	108	9
合 計	5,374	6,741	1,367

■ 債務保証の担保別内訳

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
貯 金 等			
有 価 証 券			
動 産			
不 動 産			
そ の 他 担 保 物			
計			
信 用			
合 計			

■ 貸出金の使途別内訳

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
設 備 資 金 残 高	5,224	6,561	1,337
設 備 資 金 構 成 比	97.2%	97.3%	0.1%
運 転 資 金 残 高	150	180	30
運 転 資 金 構 成 比	2.8%	2.7%	△ 0.1%
残 高 合 計	5,374	6,741	1,367

## 業種別の貸出金残高

(単位:百万円)

		30年度	元年度	増 減
農 業		558 (10.4%)	567 (8.4%)	9
林 業		- (-)	- (-)	-
水 産 業		- (-)	- (-)	-
製 造 業		13 (0.2%)	45 (0.7%)	32
鉱 業		- (-)	- (-)	-
建 設 業		- (-)	- (-)	-
電気・ガス・熱供給・水道業		- (-)	- (-)	-
運 輸 ・ 通 信 業		- (-)	- (-)	-
卸 売 ・ 小 売 ・ 飲 食 店		70 (1.3%)	47 (0.7%)	△ 23
金 融 ・ 保 険 業		- (-)	- (-)	-
不 動 産 業		489 (9.1%)	441 (6.5%)	△ 48
サ ー ビ ス 業		- (-)	- (-)	-
地 方 公 共 団 体		- (-)	- (-)	-
そ の 他		4,244 (79.0%)	5,641 (83.7%)	1,397
合 計		5,374 (100.0%)	6,741 (100.0%)	1,367

注1) ( )内は構成比です

## 貯貸率・貯証率

		30年度	元年度	増 減
貯 貸 率	期 末	28.78%	35.42%	6.64%
	期 中 平 均	26.25%	31.88%	5.63%
貯 証 率	期 末	-	-	-
	期 中 平 均	-	-	-

注1) 貯貸率(期 末) = 貸出金残高 / 貯金残高 × 100

注2) 貯貸率(期中平均) = 貸出金平均残高 / 貯金平均残高 × 100

注3) 貯証率(期 末) = 有価証券残高 / 貯金残高 × 100

注4) 貯証率(期中平均) = 有価証券平均残高 / 貯金平均残高 × 100

## ■ 主要な農業関係の貸出金残高

### 1) 営農類型別

(単位:百万円)

種 類	30年度	元年度	増 減
農 業	558	567	9
穀 作	-	-	-
野 菜 ・ 園 芸	-	-	-
果 樹 ・ 樹 園 農 業	-	-	-
工 芸 作 物	-	-	-
養 豚 ・ 肉 牛 ・ 酪 農	558	567	9
養 鶏 ・ 養 卵	-	-	-
養 蚕	-	-	-
そ の 他 農 業	-	-	-
農 業 関 連 団 体 等	-	-	-
合 計	558	567	9

注1) 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。なお、上記の「業種別の貸出金残高」の「農業」は、農業者や農業法人等に対する貸出金の残高です。

注2) 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

### 2) 資金種類別

[貸出金]

(単位:百万円)

種 類	30年度	元年度	増 減
プ ロ パ ー 資 金	5,294	6,664	1,370
農 業 制 度 資 金	80	77	△ 3
農 業 近 代 化 資 金	80	77	△ 3
そ の 他 制 度 資 金	-	-	-
合 計	5,374	6,741	1,367

注1) プロパー資金とは、当組合原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

注2) 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。

注3) その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

[受託貸付金]

(単位:百万円)

種 類	30年度	元年度	増 減
日 本 政 策 金 融 公 庫 資 金	1,373	1,318	△ 55
そ の 他	180	174	△ 6
合 計	1,553	1,492	△ 61

(注) 日本政策金融公庫資金は、農業(旧農林漁業金融公庫)にかかる資金をいいます。

## 5. リスク管理債権残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
破綻先債権額	2		△ 2
延滞債権額		3	3
3ヵ月以上延滞債権額			
貸出条件緩和債権額			
合 計	2	3	1

### 注1) 破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金)をいいます。

### 注2) 延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸出金をいいます。

### 注3) 3ヵ月以上延滞債権

元金又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金で、破綻先債権および延滞債権に該当しないものをいいます。

### 注4) 貸出条件緩和債権

債務者の再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
リスク管理債権合計(A)	2	3	1
うち担保保証で保全されている額(B)	2	3	1
個別貸倒引当金残高(C)			
担保保証等控除後債権額(D)	-	-	-

注1) (D)=(A)-{(B)+(C)}

### 注2) 担保・保証付債権額

リスク管理債権額のうち、貯金・定期積金、有価証券(上場公社債、上場株式)及び確実な不動産担保付の貸出残高ならびに農業信用基金協会等公的保証機関等による保証付の貸出金についての当該担保・保証相当額です。

### 注3) 個別計上貸倒引当金残高

リスク管理債権のうち、すでに個別貸倒引当金に繰り入れた当該引当金の残高であり、貸借対照表上の個別貸倒引当金額とは異なります。

### 注4) 担保・保証控除後債権額

リスク管理債権合計額から、担保・保証付債権額を控除した貸出金残高です。

## 6. 金融再生法に基づく開示債権残高

(単位:百万円)

	債権額	保 全 額			
		担 保	保 証	引 当	合 計
平成30年度					
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2	-	2	-	2
危険債権	-	-	-	-	-
要管理債権	-	-	-	-	-
小計	2	-	2	-	2
正常債権	5,439	1,092	4,185	-	5,277
合計	5,441	1,092	4,187	-	5,279
令和元年度					
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	-	-	-	-	-
危険債権	3	-	3	-	3
要管理債権	-	-	-	-	-
小計	3	-	3	-	3
正常債権	6,808	1,009	5,629	-	6,638
合計	6,811	1,009	5,632	-	6,641

注1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

注2) 危険債権

「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受け取りができない可能性の高い債権です。

注3) 要管理債権

「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。

注4) 正常債権

「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

## 7. 有価証券に関する指標

### ■ 種類別有価証券平均残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
国 債	-	-	-
地 方 債	-	-	-
社 債	-	-	-
株 式	157	150	△ 7
そ の 他 の 証 券	-	-	-
合 計	157	150	△ 7

注1) 貸付有価証券は有価証券の種類毎に区分して記載しております。

### ■ 商品有価証券種類別平均残高

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増 減
商 品 国 債	-	-	-
商 品 地 方 債	-	-	-
商 品 政 府 保 証 債	-	-	-
貸 付 商 品 債 券	-	-	-
合 計	-	-	-

### ■ 有価証券残存期間別残高

(単位:百万円)

	1年以下	1年超3 年以下	3年超5 年以下	5年超7 年以下	7年超10 年以下	10年超	期間の 定めなし	合 計
平成30年度								
国 債	-	-	-	-	-	-	-	-
地 方 債	-	-	-	-	-	-	-	-
社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-	-	-	154	154
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-	-	-	-	-
令和元年度								
国 債	-	-	-	-	-	-	-	-
地 方 債	-	-	-	-	-	-	-	-
社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-	-	-	146	146
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-	-	-	-	-

## 8. 有価証券等の時価情報

### ■ 有価証券の時価情報

[売買目的有価証券]

(単位:百万円)

	30年度		元年度	
	貸借対照表計上額	当年度の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	-	-	-	-

[満期保有目的有価証券]

(単位:百万円)

	種類	30年度			元年度		
		貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	小計	-	-	-	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	小計	-	-	-	-	-	-
合計		-	-	-	-	-	-

[その他有価証券]

(単位:百万円)

	種類	30年度			元年度		
		貸借対照表計上額	取得価額又は償却原価	差額	貸借対照表計上額	取得価額又は償却原価	差額
貸借対照表計上額が取得価額または償却原価を超えるもの	株式	154	51	103	146	51	95
	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	小計	-	-	-	-	-	-
貸借対照表計上額が取得価額または償却原価を超えないもの	株式	-	-	-	-	-	-
	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	小計	-	-	-	-	-	-
合計		154	51	103	146	51	95

## ■ 金銭の信託

[運用目的の金銭の信託]

(単位:百万円)

	30年度		元年度	
	貸借対照表計上額	当年度の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託				

[満期保有目的の金銭の信託]

(単位:百万円)

	30年度					元年度				
	貸借対照表計上額	時価	差額	うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの	うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの	貸借対照表計上額	時価	差額	うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの	うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの
満期保有目的の金銭の信託										

注1) 時価は期末日における市場価格等によっております。

注2) 「うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの」「うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳であります。

[その他の金銭の信託]

(単位:百万円)

	30年度					元年度				
	貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの	うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの	貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの	うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの
その他の金銭の信託										

注1) 時価は期末日における市場価格等によっております。

注2) 「うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの」「うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳であります。

## ■ デリバティブ取引、金融等デリバティブ取引 有価証券関連店頭デリバティブ取引

該当する取引はありません。

## 9. 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位:百万円)

区 分		30 年 度					
		期首残高	当期繰入額	当期取崩額		純繰入額 (▲純取崩額)	期末残高
				目的使用	その他		
一般貸倒引当金		15	18	-	15	3	18
個別貸倒引当金		-	0	-	-	0	0
合 計		15	18	-	15	3	18

区 分		元 年 度					
		期首残高	当期繰入額	当期取崩額		純繰入額 (▲純取崩額)	期末残高
				目的使用	その他		
一般貸倒引当金		18	25	-	18	7	25
個別貸倒引当金		0	0	0	0	0	-
合 計		18	25	0	18	7	25

## 10. 貸出金償却の額

(単位:百万円)

	30 年 度	元 年 度
貸出金償却額	-	-

## IV. その他の事業

### 1. 共済事業

#### ● 長期共済保有高

(単位:百万円)

		30年度		元年度	
		新契約高	保有契約高	新契約高	保有契約高
生命総合共済	終身共済	62	2,744	117	2,770
	定期生命共済	10	503	6	506
	養老生命共済	65	1,602	44	1,607
	こども共済	61	825	31	847
	医療共済	-	175	18	175
	がん共済	-	11	-	11
	定期医療共済	-	92	-	90
	介護共済	-	5	-	5
	年金共済	-	20	-	20
建物更正共済		1,362	9,521	1,864	9,066
合 計		1,499	14,673	2,049	14,250

注1) 金額は、保障金額(がん共済はがん死亡共済金額、医療共済及び定期医療共済は死亡給付金額(付加された定期特約金額等を含む)、年金共済は付加された定期特約

注2) こども共済は養老生命共済の内書を表示しております。

注3) JA共済はJA、全国共済連の双方が共済契約の元受を共同で行っており、共済契約が満期を迎えられたり、万一事故が起きた場合には、JA及び全国共済連の両者が連帯して共済責任を負うことにより、より安心してご利用いただける仕組みになっております。(短期共済についても同様です。)

注4) 生活障害共済には死亡保障がないことから、「長期共済保有高」には記載せず、後掲「介護共済・生活障害共済の共済金額保有高」に記載する。

#### ● 医療系共済の入院共済金額保有高

(単位:百万円)

種類	30年度		元年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
医療共済	0	2	0	2
がん共済	0	1	0	1
定期医療共済	0	0	0	0
合計	0	3	0	3

注)1 金額は、入院共済金額を表示しています。

#### ● 介護共済・生活障害共済の共済金額保有高

(単位:百万円)

種類	30年度		元年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
介護共済	0	10	1	11
生活障害共済(一時金型)	15	15	3	18
生活障害共済(定期年金型)	2	2	-	2
合計	0	10	1	11

注1) 金額は、介護共済は介護共済金額、生活障害共済は生活障害共済金額又は生活障害年金額を表示しております。

## ● 年金共済の年金保有高

(単位:百万円)

種類	30年度		元年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
年金開始前	26	74	33	104
年金開始後	-	17	-	14
合計	26	91	33	118

注1) 金額は、年金年額(利益変動型年金にあつては、最低保証年金額)を表示しています。

## ● 短期共済新契約高

(単位:百万円)

	30年度	元年度
火災共済	2,625	2,676
自動車共済	60	61
傷害共済	2,129	1,793
賠償責任共済	0	0
自賠責共済	7	8
合計	4,821	4,538

注1) 金額は、保障金額を表示しております。

注2) 自動車共済、賠償責任共済、自賠責共済は掛金総額です。

## 2. 生乳共販事業

(単位:t)

区分		30年度	元年度
生乳生産量	石狩地区	41,052	40,515
	胆振地区	1,783	1,772
	上川地区	350	73
	合計	43,185	42,360

## 3. 購買事業

(単位:t、百万円)

区分		30年度		元年度	
		取扱量	金額	取扱量	金額
購買取扱高	配合飼料	11,559	624	11,757	628
	単味飼料	6,637	353	7,031	374
	肥料	2,427	147	2,684	173
	農機具		146		120
	酪農資材他		226		237
	合計	20,623	1,496	21,472	1,532

#### 4. 畜産事業

(単位:頭、百万円)

区 分		30年度		元年度	
		頭数	手数料	頭数	手数料
乳牛 幹旋	経産牛	8	-	32	-
	初妊牛	155	-	160	-
	育成牛	414	-	387	-
	肉用牛	409	-	393	-
	牡 犢	1,188	-	1,010	-
	合 計	2,174	10	1,982	9

#### 5. 家畜診療事業

(単位:頭、件、百万円)

区分	30年度	元年度
人工授精実頭数	2,041	2,261
診 療 件 数	9,407	11,246
収 益	98	112

#### 6. 市乳事業

(単位:KL、百万円)

区 分		30年度		元年度	
		取扱量	金額	取扱量	金額
市 乳 取 扱 高	飲用乳	32,595	4,989	33,601	5,308
	その他	9,417	1,905	9,337	2,017
	合 計	42,012	6,894	42,938	7,325

## V. 自己資本の充実の状況

### 1. 自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円、%)

項 目	当期末	前年末	
			経過措置による不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目</b>			
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	2,635	2,493	
うち、出資金及び資本準備金の額	1,305	1,278	
うち、再評価積立金の額			
うち、利益剰余金の額	1,406	1,255	
うち、外部流出予定額(△)	△71	33	
うち、上位以外に該当するものの額	△5	△7	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	25	18	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	25	18	
うち、適格引当金コア資本算入額			
適格旧資本調達手段の額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額			
うち、回転出資金の額			
うち、上記以外に該当するものの額			
公的機関による資本増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額			
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の4.5%に相当する額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額			
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	2,660	2,510	
<b>コア資本に係る調整項目</b>			
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	2	2	1
うち、のれんに係るものの額			
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2	2	1
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く)の額			
適格引当金不足額			
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額			
負債の時価評価により生じた時価評価差額金であって自己資本に算入される額			
前払年金費用の額	12	4	1
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く)の額			
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額			
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額			
特定項目に係る10%基準超過額			
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額			

うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額			
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連するものの額			
特定項目に係る15%基準超過額			
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額			
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額			
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連するものの額			
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	15	6	
<b>自己資本</b>			
自己資本の額（イ）－（ロ）（ハ）	2,645	2,504	
<b>リスク・アセット等</b>			
信用リスク・アセットの額の合計額	11,782	11,454	
資産（オン・バランス）項目	11,782	11,454	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額		△ 230	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）		1	
うち、繰延税金資産			
うち、前払年金費用		1	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー		231	
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に係るものの額			
うち、上記以外に該当するものの額			
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	1,958	1,925	
信用リスク・アセット調整額			
オペレーショナル・リスク相当額調整額			
リスク・アセット等の額の合計額（ニ）	13,740	13,378	
<b>自己資本比率</b>			
自己資本比率（ハ）／（ニ）	19.25	18.72	

注)

- 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。
- 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあつては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあつては基礎的手法を採用しています。
- 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

## 2. 自己資本の充実度に関する事項

### ① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分毎の内訳

(単位:百万円)

信用リスク・アセット	30年度			元年度		
	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 $b=a \times 4\%$	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 $b=a \times 4\%$
現金	41			43		
我が国の中央政府及び中央銀行向け						
外国の中央政府及び中央銀行向け						
国際決済銀行等向け						
我が国の地方公共団体向け						
外国の中央政府等以外の公共部門向け						
国際開発銀行向け						
地方公共団体金融機構向け						
我が国の政府関係機関向け						
地方三公社向け						
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	12,354	2,471	99	11,826	2,365	95
法人等向け	358	218	9	317	192	8
中小企業等向け及び個人向け	334	140	6	543	307	12
抵当権付住宅ローン	1,112	387	15	1,047	365	15
不動産取得等事業向け	343	338	14	308	304	12
三月以上延滞等						
取立未済手形	4	1	0	2		
信用保証協会等保証付	1,257	123	5	2,239	221	9
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付						
共済約款貸付	1					
出資等	304	304	12	296	296	12
(うち出資等のエクスポージャー)	304	304	12	296	296	12
(うち重要な出資のエクスポージャー)						

上記以外	7,118	7,702	308	7,211	7,733	309
(うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)						
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象普通出資等に係るエクスポージャー)	462	1,155	46	462	1,155	46
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	26	66	3	6	14	1
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー)						
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー)						
(うち上記以外のエクスポージャー)	6,630	6,481	259	6,743	6,564	263
証券化						
(うちSTC要件適用分)						
(うち非STC適用分)						
再証券化						
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー						
(うちルックスルー方式)						
(うちマンドート方式)						
(うち蓋然性方式250%)						
(うち蓋然性方式400%)						
(うちフォールバック方式)						
経過措置によりリスクアセットの額に算入されるものの額		1	0			
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額(△)		231	9			
標準的手法を適用するエクスポージャー別計						
CVAリスク相当額÷8%						
中央清算機関関連エクスポージャー						
合計(信用リスク・アセットの額)	23,228	11,454	458	23,836	11,782	471

オペレーショナル・リスクに対する 所要自己資本の額 <基礎的手法>	オペレーショナル・リスク相 当額を8%で除して得た額	所要 自己資本額	オペレーショナル・リスク相 当額を8%で除して得た額	所要 自己資本額
	a	b=a×4%	a	b=a×4%
	1,925	77	1,958	78
所要自己資本額計	リスク・アセット等(分母)合計	所要 自己資本額	リスク・アセット等(分母)合計	所要 自己資本額
	a	b=a×4%	a	b=a×4%
	13,378	535	13,740	550

- 注1) 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。
- 注2) 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
- 注3) 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
- 注4) 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
- 注5) 「証券化(証券化エクスポージャー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。
- 注6) 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額および調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
- 注7) 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産(固定資産等)・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
- 注8) オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、当JAでは基礎的手法を採用しています。

<オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>

$$\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

### 3. 信用リスクに関する事項

#### ① 標準的手法に関する事項

当組合では自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

- (ア) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター(R&I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S&Pグローバル・レーティング(S&P)
フィッチレーティングスリミテッド(Fitch)

- (イ) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポージャー	適格格付機関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー(長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー(短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

② 信用リスクに関するエクスポージャー(地域別、業種別、残存期間別)及び三月以上延滞エクスポージャーの期末残高

(単位:百万円)

		30年度			元年度				
		信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	三月以上延滞エクスポージャー	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	三月以上延滞エクスポージャー
法人	農業	300	300	-	-	276	276	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	13	13	-	-	46	46	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	3	3	-	-	1	1	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	12,302	-	-	-	11,776	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	70	70	-	-	47	47	-	-
	日本国政府・地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-
	上記以外	1,009	240	-	-	986	226	-	-
	個人	4,753	4,752	-	-	6,152	6,152	-	-
その他	4,778	-	-	0	4,552	-	-	-	
業種別残高計	23,228	5,378	-	0	23,836	6,748	-	-	
1年以下	12,561	463	-	-	12,347	573	-	-	
1年超3年以下	216	216	-	-	167	167	-	-	
3年超5年以下	255	255	-	-	276	276	-	-	
5年超7年以下	257	257	-	-	320	320	-	-	
7年超10年以下	288	288	-	-	373	373	-	-	
10年超	3,872	3,872	-	-	4,973	4,973	-	-	
期限の定めのないもの	5,779	27	-	0	5,380	66	-	-	
残存期間別残高計	23,228	5,378	-	0	23,836	6,748	-	-	
信用リスク期末残高	23,228	5,378	-	0	23,836	6,748	-	-	
信用リスク平均残高	22,919	4,954	-	0	23,532	6,063	-	-	

注1) 国外のエクスポージャーは該当ありませんので、地域別の区分は省略しております。

注2) 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

注3) 「その他」には、現金・その他の資産(固定資産等)が含まれます。

注4) 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞しているエクスポージャーのことです。

③ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位:百万円)

	30年度					元年度				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	15	18	-	15	18	18	25	-	18	25
個別貸倒引当金	-	0	-	-	0	0	-	0	0	-

④ 地域別・業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位:百万円)

		30年度						元年度					
		期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却
				目的使用	その他					目的使用	その他		
法人	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	0	-	-	0	-	0	-	0	0	-	-
	上記以外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
個人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
業種別計	-	0	-	-	0	-	0	-	0	0	-	-	

注1) 国外のエクスポートは該当ありませんので、地域別の区分は省略しております。

⑤ 信用リスク削減効果勘案後の残高及び自己資本控除額

(単位:百万円)

		30年度	元年度
信用 リス ク 削 減 効 果 勘 案 後 残 高	リスク・ウェイト0%	42	43
	リスク・ウェイト2%	0	0
	リスク・ウェイト4%	0	0
	リスク・ウェイト10%	1,229	2,211
	リスク・ウェイト20%	12,357	11,828
	リスク・ウェイト35%	1,107	1,043
	リスク・ウェイト50%	0	0
	リスク・ウェイト75%	59	315
	リスク・ウェイト100%	7,331	7,350
	リスク・ウェイト150%	0	0
	リスク・ウェイト200%	462	0
	リスク・ウェイト250%	26	468
	その他	6	14
	リスク・ウェイト 1250%	0	0
自己資本控除額	0	0	
合 計	22,618	23,271	

注)

1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
3. 経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウェイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

## 4. 信用リスク削減手法に関する事項

### ① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポージャーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合に、エクスポージャーのリスク・ウエイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウエイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当組合では、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」にて定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「保証」、「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポージャーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当組合では、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウエイトが適用される中央政府等、我が国の地方公共団体、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関または第一種金融商品取引業者、これら以外の主体で長期格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

ただし、証券化エクスポージャーについては、これら以外の主体で保証提供時に長期格付がA-またはA3以上で、算定基準日に長期格付がBBB-またはBaa3以上の格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視および管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポージャー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

## ② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位:百万円)

	30年度		元年度	
	適格金融 資産担保	保証	適格金融 資産担保	保証
地方公共団体金融機 構向け	-	-	-	-
我が国の政府関係機 関向け	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-
金融機関及び第一 種金融商品取 引業者向け	-	-	-	-
法人等向け	141	-	121	-
中小企業等向け及 び個人向け	23	223	26	164
抵当権付住宅 ローン	-	-	-	-
不動産取得等事 業向け	-	-	-	-
三月以上延滞等	-	-	-	-
証券化	-	-	-	-
中央清算機関関 連	-	-	-	-
上記以外	95	27	148	16
合 計	259	250	295	180

注1) 「エクスポージャー」とは、資産並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。

注2) 「我が国の政府関係機関向け」には、「地方公営企業等向けエクスポージャー」を含めて記載しています。

注3) 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことであります。

注4) 「上記以外」には、現金・その他の資産(固定資産等)が含まれます。

## 5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

## 6. 証券化エクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません。

## 7. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

### ①出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資その他これに類するエクスポージャー」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当J Aにおいては、これらを①子会社および関連会社株式、②その他有価証券、③系統および系統外出資に区分して管理しています。

①子会社および関連会社については、経営上も密接な連携を図ることにより、当J Aの事業のより効率的運営を目的として、株式を保有しています。これらの会社の経営については毎期の決算書類の分析の他、毎月定期的な連絡会議を行う等適切な業況把握に努めています。

②その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握およびコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された取引方針などにに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引については企画管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資その他これに類するエクスポージャーの評価等については、①子会社および関連会社については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて子会社等損失引当金を、②その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券評価差額金」として純資産の部に計上しています。③系統および系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

### ② 出資その他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価

(単位:百万円)

	30年度		元年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	154	154	145	145
非上場	615	615	615	615
合計	769	769	760	760

注)「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表額の合計額です。

### ③ 出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益

(単位:百万円)

	30年度			元年度		
	売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
	-	-	-	-	-	-

- ④ 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額  
(その他有価証券の評価損益等)

(単位:百万円)

30年度		元年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
103	—	94	—

- ⑤ 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額  
(子会社・関連会社株式の評価損益等)

(単位:百万円)

30年度		元年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
—	—	—	—

## 8. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

	令和元年度	平成30年度
ルックスルー方式を適用するエクスポージャー	—	
マンドート方式を適用するエクスポージャー	—	
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	—	
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	—	
フォールバック方式(1250%)を適用するエクスポージャー	—	

## 9. 金利リスクに関する事項

### ① 金利リスクの算定手法に関する事項

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

具体的な金利リスク管理方針および手続については以下のとおりです。

#### ◇リスク管理の方針および手続の概要

・リスク管理および計測の対象とする金利リスクの考え方および範囲に関する説明

当JAでは、金利リスクを重要なリスクの一つとして認識し、適切な管理体制のもとで他の市場リスクと一体的に管理をしています。金利リスクのうち銀行勘定の金利リスク(IRRB)については、個別の管理指標の設定やモニタリング体制の整備などにより厳正な管理に努めています。

・リスク管理およびリスクの削減の方針に関する説明

当JAは、リスク管理委員会のもと、自己資本に対するIRRBの比率の管理や収支シミュレーションの分析などを行いリスク削減に努めています。

・金利リスク計測の頻度

毎月末を基準日として、月次でIRRBを計測しています。

・ヘッジ等金利リスクの削減手法に関する説明

当JAは、金利スワップ等のヘッジ手段を活用し金利リスクの削減に努めています。また、金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上および監査上の取扱い」(日本公認会計士協会)に規定する繰延ヘッジに依っています。

#### ◇金利リスクの算定手法の概要

当JAでは、市場金利が上下に0.2%変動した時に発生する経済価値の変化額(低下額)を金利リスク量として毎月算出しています。

・流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期

要求払貯金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって随時払い出される要求払貯金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する貯金をコア貯金と定義し、当JAでは、普通貯金等の額の50%相当額を0~5年の期間に均等に振り分けて(平均残存2.5年)リスク量を算定しています。

流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期は1.25年です。

・流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期

流動性に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。

・流動性貯金への満期の割り当て方法(コア貯金モデル等)およびその前提

流動性貯金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しています。

・固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約に関する前提

固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約について考慮していません。

・複数の通貨の集計方法およびその前提

通貨別に算出した金利リスクの正値を合算しています。通貨間の相関等は考慮していません。

・スプレッドに関する前提(計算にあたって割引金利やキャッシュ・フローに含めるかどうか)

一定の前提を置いたスプレッドを考慮してキャッシュ・フローを展開しています。なお、当該スプレッドは金利変動ショックの設定上は不変としています。

・内部モデルの使用等、 $\Delta$ EVEおよび $\Delta$ NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提、前事業年度末の開示からの変動に関する説明

内部モデルは使用していません。

・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明

該当ありません。

#### ◇ $\Delta$ EVEおよび $\Delta$ NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項

・金利ショックに関する説明

リスク資本配賦管理としてVaRで計測する市場リスク量を算定しています。

・金利リスク計測の前提およびその意味(特に、農協法自己資本開示告示に基づく定量的開示の対象と金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。

$$\text{金利リスク} = \text{運用勘定の金利リスク量} + \text{調達勘定の金利リスク量} (\Delta)$$

② 金利リスクに関する事項

(単位:百万円)

IRRBB1:金利リスク		イ	ロ	ハ	ニ
項番		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	470			
2	下方パラレルシフト	0			
3	スティープ化	471			
4	フラット化	0			
5	短期金利上昇	0			
6	短期金利低下	0			
7	最大値	471			
		ホ		へ	
		当期末		前期末	
8	自己資本の額		2,645		

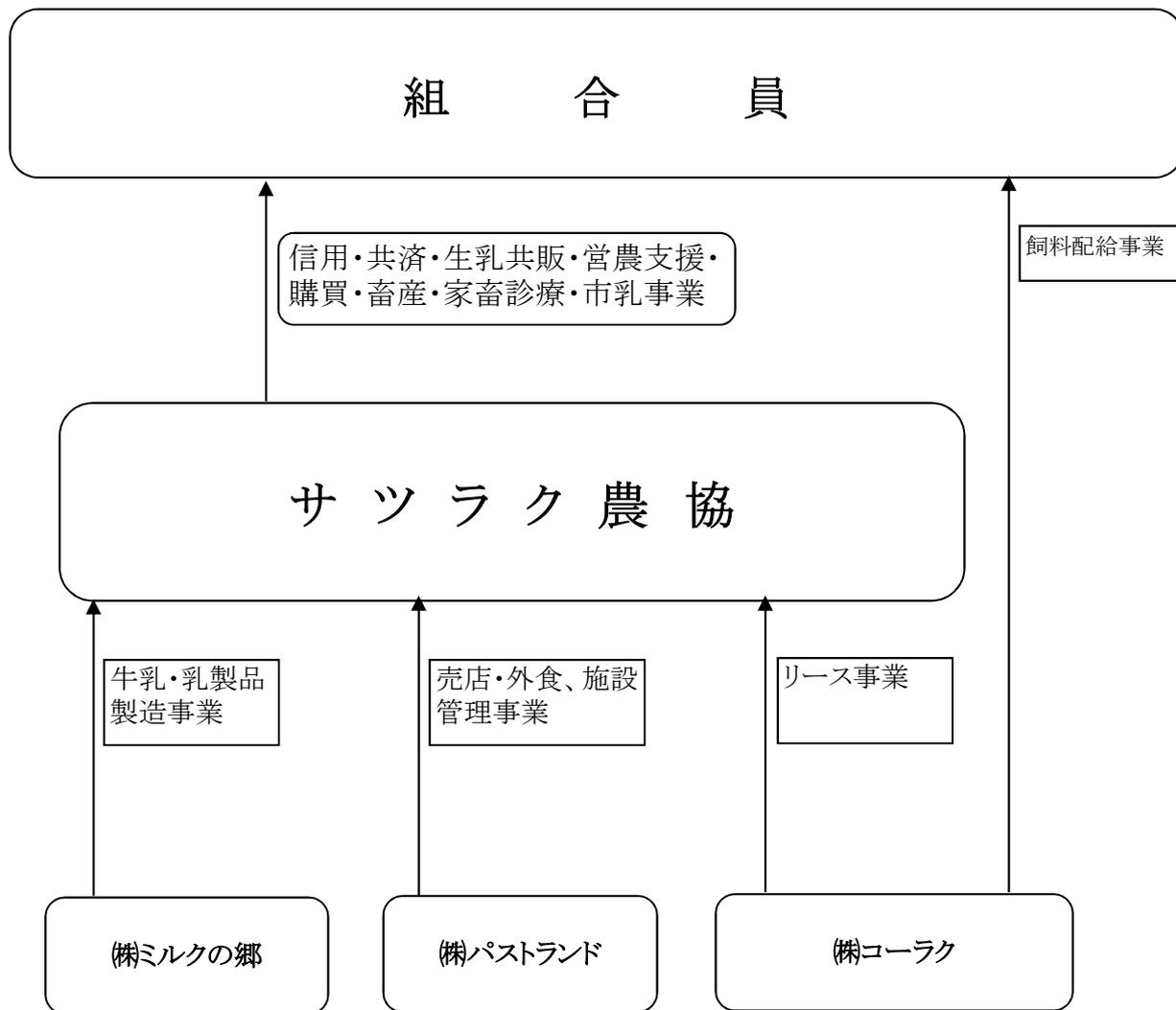
## VI. 連結情報

### 1. 組合およびその子会社等の主要な事業の内容および組織の構成

(1) 組合及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成

#### ■ グループの概況

#### サツラク農協および子会社の事業系統図



#### 子会社の主要事業の実績

##### ◇ (株)ミルクの郷

(単位:KL・百万円)

区 分	30年度	元年度
年間生産量	43,887	44,555
年間売上高	5,980	6,233

##### ◇ (株)パストランド

(単位:百万円)

区 分	30年度	元年度
年間売上高	76	81

##### ◇ (株)コーラク

(単位:百万円)

区 分	30年度	元年度
リース料収入	44	41
その他売上	7	7
年間売上高計	51	48

## (2) 組合の子会社等に関する事項

### ■ 子会社等について

#### 株式会社 ミルクの郷

◆ 所在地	札幌市東区丘珠町573番地27
◆ 主要業務内容	牛乳・乳製品製造事業
◆ 設立年月日	平成10年2月20日
◆ 資本金	30,000千円
◆ 議決権比率	70.0%

#### 株式会社 パストランド

◆ 所在地	札幌市東区丘珠町573番地27
◆ 主要業務内容	売店・外食、施設管理事業
◆ 設立年月日	平成8年4月16日
◆ 資本金	40,000千円
◆ 議決権比率	99.6%

#### 株式会社 コーラク

◆ 所在地	札幌市東区苗穂町3丁目3番7号（サツラク本所内）
◆ 主要業務内容	飼料配給、リース事業
◆ 設立年月日	昭和19年9月8日
◆ 資本金	40,000千円
◆ 議決権比率	99.7%

## 2. 連結事業概況(令和元年度)

### ■ 直近の事業年度における事業の概要

#### ◇ 連結事業の概況

##### ① 事業の概況

令和元年度のサツラク農業協同組合の連結決算は子会社等を連結しております。

連結決算の内容は、連結事業収益10,086百万円、連結当期剰余金193百万円、連結純資産3,115百万円、連結総資産23,774百万円で、連結自己資本比率は21.17%となりました。

##### ② 連結子会社等の事業概況

###### 株式会社ミルクの郷

令和元年度は、事業収益6,233,198千円、当期純利益6,830千円となりました。

###### 株式会社パストランド

令和元年度は、事業収益81,334千円、当期純利益2,535千円となりました。

###### 株式会社コーラク

令和元年度は、事業収益48,273千円、当期純利益4,774千円となりました。

3. 連結貸借対照表、連結損益計算書、連結注記表及び連結剰余金計算書

平成30年度

連結貸借対照表

(平成30年12月31日現在)

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 ・ 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資 産 の 部)</b>		<b>(負 債 の 部)</b>	
1. 信用事業資産	17,691,256	1. 信用事業負債	18,567,344
(1) 現金及び預金	12,340,796	(1) 貯金	18,426,167
(2) 有価証券	-	(2) 借入金	-
(3) 貸出金	5,291,481	(3) その他の信用事業負債	141,177
(4) その他の信用事業資産	73,383		
(5) 貸倒引当金	△ 14,404	2. 共済事業負債	42,796
2. 共済事業資産	1,999	(1) 共済借入金	1,060
(1) 共済貸付金	1,060	(2) 共済資金	27,231
(2) その他の共済事業資産	946	(3) その他の共済事業負債	14,505
(3) 貸倒引当金	△ 7	3. 経済事業負債	1,308,010
3. 経済事業資産	1,937,644	(1) 支払手形及び経済事業未払金	750,162
(1) 受取手形及び経済事業未収金	1,164,624	(2) その他の経済事業負債	557,849
(2) 棚卸資産	447,756	4. 設備借入金	14,104
(3) その他の経済事業資産	328,909	5. 雑負債	174,392
(4) 貸倒引当金	△ 3,645	(1) 税未払金	58,187
4. 雑資産	9,419	(2) リース債務	3,360
(1) 経済事業以外の債権等	9,419	(3) その他の雑負債	112,845
(2) 貸倒引当金	-	6. 諸引当金	-
5. 固定資産	2,707,523	(1) 退職給付に係る負債	-
(1) 有形固定資産	2,703,311	7. 繰延税金負債	5,337
建物構築物	(932,330)	8. 連結調整勘定	-
車両運搬具	(12,229)	<b>負債の部合計</b>	<b>20,111,984</b>
機械装置	(313,741)	<b>(純 資 産 の 部)</b>	
工具器具備品	(43,555)	1. 組合員資本	2,771,023
土地	(1,400,697)	(1) 出資金	1,276,287
建設仮勘定	(-)	(2) 資本剰余金	1,854
リース資産	(-)	(3) 利益剰余金	1,500,115
一括償却資産	(760)	(4) 処分未済持分	△ 7,233
(2) 無形固定資産	4,212	(5) 子会社所有親組合出資金	-
ソフトウェア	(3,733)	2. 評価・換算差額等	74,497
電話加入権	(479)	(1) その他有価証券評価差額金	74,497
6. 外部出資	687,284	3. 非支配株主持分	83,906
(1) 外部出資	690,284		
(2) 外部出資等損失引当金	△ 3,000	<b>純資産の部合計</b>	<b>2,929,426</b>
7. 退職給付に係る資産	6,285	<b>負債・純資産の部合計</b>	<b>23,041,410</b>
8. 繰延税金資産	-		
9. 繰延資産	-		
<b>資産の部合計</b>	<b>23,041,410</b>		

平成30年度

連 結 損 益 計 算 書

(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

(単位:千円)

勘 定 科 目	金 額	
<b>1. 事業総利益</b>		1,030,259
<b>事業収益</b>	9,614,110	
<b>事業費用</b>	8,583,850	
(1) 信用事業収益	155,972	
資金運用収益	138,257	
(うち預金利息)	(1,469)	
(うち受取奨励金)	(66,442)	
(うち貸出金利息)	(64,467)	
(うちその他受入利息)	(5,879)	
役務取引等収益	7,348	
その他経常収益	10,367	
(2) 信用事業費用	42,741	
資金調達費用	19,868	
(うち貯金利息)	(18,676)	
(うち給付補填備金繰入)	(442)	
(うち借入金利息)	(59)	
(うちその他支払利息)	(691)	
役務取引等費用	3,420	
その他経常費用	19,453	
(うち貸倒引当金繰入額)	(2,369)	
<b>信用事業総利益</b>		113,231
(3) 共済事業収益	45,276	
共済付加収入	40,086	
その他の収益	5,190	
(4) 共済事業費用	1,418	
共済推進費及び共済保全費	1,422	
その他の費用	△ 4	
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 4)	
<b>共済事業総利益</b>		43,858
(5) 購買事業収益	1,477,797	
購買品供給高	1,475,179	
購買雑収益	2,618	
(6) 購買事業費用	1,386,542	
購買品供給原価	1,261,228	
購買諸費	125,314	
(うち貸倒引当金繰入額)	(14)	
<b>購買事業総利益</b>		91,255
(7) 販売事業収益	275,303	
販売手数料	55,342	
受入集乳費	214,868	
販売雑収益	5,093	
(8) 販売事業費用	69,865	
販売諸費	69,865	
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 149)	
<b>販売事業総利益</b>		205,438
(9) 畜産事業収益	240,112	
肉用牛売上高	212,274	
乳牛幹旋収益	10,452	
畜産雑収益	17,386	
(10) 畜産事業費用	206,902	
肉用牛製造原価	201,353	
畜産諸費	5,548	
(うち貸倒引当金繰入額)	(10)	
<b>畜産事業総利益</b>		33,211

勘 定 科 目	金 額	
(11) 市乳事業収益		7,257,880
市乳事業売上高	7,256,833	
市乳雑収益	1,047	
(12) 市乳事業費用		6,805,052
市乳商品売上原価	98,131	
市乳製品製造原価	5,795,137	
市乳配送費	694,583	
市乳販売費	217,201	
(うち貸倒引当金繰入額)	(106)	
<b>市乳事業総利益</b>		<b>452,828</b>
(13) その他事業収益		161,769
授精診療収益	86,009	
授精診療雑収益	11,912	
業務受託手数料	20,827	
リース料収入	60	
仕入商品売上高	42,962	
(14) その他事業費用		71,331
授精診療直接費	35,054	
授精診療諸費	9,913	
リース減価償却費	14	
仕入商品売上原価	26,349	
(うち貸倒引当金繰入額)	(1)	
<b>その他事業総利益</b>		<b>90,439</b>
<b>2. 事業管理費</b>		<b>921,112</b>
(1) 人件費		672,140
(2) 減価償却費		52,099
(3) その他事業管理費		196,873
<b>事業利益</b>		<b>109,147</b>
<b>3. 事業外収益</b>		<b>33,654</b>
(1) 受取雑利息		67
(2) 受取出資配当金		6,927
(3) 持分法による投資益		-
(4) 賃貸料		4,836
(5) 貸倒引当金戻入益(事業外)		-
(6) その他の事業外収益		21,824
<b>4. 事業外費用</b>		<b>8,581</b>
(1) 支払雑利息		298
(2) 持分法による投資損		-
(3) 貸倒引当金繰入額(事業外)		-
(4) その他の事業外費用		8,283
<b>経常利益</b>		<b>134,220</b>
<b>5. 特別利益</b>		<b>112,649</b>
(1) 固定資産処分益		103,137
(2) その他の特別利益		9,512
<b>6. 特別損失</b>		<b>145,283</b>
(1) 固定資産処分損		8,816
(2) 減損損失		73,157
(3) 災害損失		63,310
(4) その他の特別損失		-
<b>税金等調整前当期利益</b>		<b>101,586</b>
7. 法人税・住民税及び事業税		46,072
8. 過年度法人税等追徴税額		-
9. 法人税等調整額		△ 19,016
10. 法人税等合計		27,055
11. 当期利益		74,530
12. 非支配株主に帰属する当期利益		2,345
<b>当期剰余金</b>		<b>72,185</b>

# 令和元年度

## 連結貸借対照表

(令和元年12月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
1. 信用事業資産	18,521,705	1. 信用事業負債	19,035,107
(1) 現金及び預金	11,819,073	(1) 貯金	18,871,321
(2) 有価証券	-	(2) 借入金	-
(3) 貸出金	6,648,642	(3) その他の信用事業負債	163,786
(4) その他の信用事業資産	73,093		
(5) 貸倒引当金	△ 19,104	2. 共済事業負債	26,053
2. 共済事業資産	1,365	(1) 共済資金	11,840
(1) その他の共済事業資産	1,369	(2) その他の共済事業負債	14,213
(2) 貸倒引当金	△ 4		
3. 経済事業資産	1,859,988	3. 経済事業負債	1,386,368
(1) 受取手形及び経済事業未収金	1,213,689	(1) 支払手形及び経済事業未払金	753,673
(2) 棚卸資産	262,523	(2) その他の経済事業負債	632,695
(3) その他の経済事業資産	389,404		
(4) 貸倒引当金	△ 5,628	4. 設備借入金	-
4. 雑資産	10,282	5. 雑負債	185,830
(1) 経済事業以外の債権等	10,283	(1) 税未払金	66,229
(2) 貸倒引当金	△ 1	(2) リース債務	2,694
		(3) その他の雑負債	116,907
5. 固定資産	2,683,863	6. 諸引当金	-
(1) 有形固定資産	2,670,820	(1) 退職給付に係る負債	-
建物構築物	(900,109)		
車両運搬具	(6,971)	7. 繰延税金負債	25,569
機械装置	(344,500)		
工具器具備品	(24,616)	8. 負ののれん	-
土地	(1,387,903)		
建設仮勘定	(4,860)	<b>負債の部合計</b>	<b>20,658,927</b>
リース資産	(-)	<b>(純資産の部)</b>	
一括償却資産	(1,860)	1. 組合員資本	2,960,755
(2) 無形固定資産	13,044	(1) 出資金	1,303,197
ソフトウェア	(12,600)	(2) 資本剰余金	1,854
電話加入権	(444)	(3) 利益剰余金	1,660,399
6. 外部出資	679,286	(4) 処分未済持分	△ 4,695
(1) 外部出資	682,225	(5) 子会社所有親組合出資金	-
(2) 外部出資等損失引当金	△ 2,939	2. 評価・換算差額等	68,077
7. 退職給付に係る資産	17,235	(1) その他有価証券評価差額金	68,077
8. 繰延税金資産	-		
9. 繰延資産	-	3. 非支配株主持分	85,966
		<b>純資産の部合計</b>	<b>3,114,797</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>23,773,724</b>	<b>負債・純資産の部合計</b>	<b>23,773,724</b>

令和元年度

連結損益計算書

(自平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)

(単位:千円)

勘定科目	金額	
<b>1. 事業総利益</b>		1,135,538
<b>事業収益</b>	10,085,391	
<b>事業費用</b>	8,950,393	
(1) 信用事業収益	162,733	
資金運用収益	141,867	
(うち預金利息)	(1,376)	
(うち受取奨励金)	(63,230)	
(うち貸出金利息)	(71,046)	
(うちその他受入利息)	(6,215)	
役務取引等収益	8,722	
その他経常収益	12,145	
(2) 信用事業費用	44,982	
資金調達費用	18,260	
(うち貯金利息)	(16,955)	
(うち給付補填備金繰入)	(340)	
(うち借入金利息)	(67)	
(うちその他支払利息)	(898)	
役務取引等費用	3,592	
その他経常費用	23,130	
(うち貸倒引当金繰入額)	(4,699)	
<b>信用事業総利益</b>		117,751
(3) 共済事業収益	45,456	
共済付加収入	39,959	
その他の収益	5,497	
(4) 共済事業費用	1,240	
共済推進費及び共済保全費	1,243	
その他の費用	△ 3	
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 3)	
<b>共済事業総利益</b>		44,216
(5) 購買事業収益	1,513,583	
購買品供給高	1,511,340	
購買雑収益	2,243	
(6) 購買事業費用	1,418,391	
購買品供給原価	1,288,565	
購買諸費	129,826	
(うち貸倒引当金繰入額)	(212)	
<b>購買事業総利益</b>		95,192
(7) 販売事業収益	287,360	
販売手数料	56,209	
受入集乳費	226,524	
販売雑収益	4,626	
(8) 販売事業費用	104,128	
販売諸費	104,128	
(うち貸倒引当金繰入額)	(2,053)	
<b>販売事業総利益</b>		183,232
(9) 畜産事業収益	342,103	
肉用牛売上高	318,492	
乳牛幹旋収益	9,415	
畜産雑収益	14,197	
(10) 畜産事業費用	323,926	
肉用牛製造原価	318,626	
畜産諸費	5,300	
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 6)	
<b>畜産事業総利益</b>		18,177

勘 定 科 目	金 額	
(11) 市乳事業収益		7,645,145
市乳事業売上高	7,643,193	
市乳雑収益	1,952	
(12) 市乳事業費用		7,106,587
市乳商品売上原価	95,133	
市乳製品製造原価	6,067,632	
市乳配送費	711,266	
市乳販売費	232,557	
(うち貸倒引当金繰入額)	(32)	
<b>市乳事業総利益</b>		<b>538,558</b>
(13) その他事業収益		215,138
授精診療収益	98,913	
原料乳受入収益	12,577	
原料乳受入収益	55,118	
受取手数料	909	
リース料収入	60	
仕入商品売上高	47,561	
(14) その他事業費用		76,725
授精診療直接費	39,362	
授精診療諸費	9,960	
仕入商品売上原価	27,403	
(うち貸倒引当金繰入額)	(16)	
<b>その他事業総利益</b>		<b>138,413</b>
<b>2. 事業管理費</b>		<b>931,898</b>
(1) 人件費		709,828
(2) 減価償却費		18,866
(3) その他事業管理費		203,203
<b>事業利益</b>		<b>203,640</b>
<b>3. 事業外収益</b>		<b>33,874</b>
(1) 受取雑利息		5
(2) 受取出資配当金		7,044
(3) 持分法による投資益		-
(4) 賃貸料		4,155
(5) 貸倒引当金戻入益(事業外)		-
(6) その他の事業外収益		22,670
<b>4. 事業外費用</b>		<b>7,908</b>
(1) 支払雑利息		143
(2) 持分法による投資損		-
(3) 貸倒引当金繰入額(事業外)		1
(4) その他の事業外費用		7,764
<b>経常利益</b>		<b>229,607</b>
<b>5. 特別利益</b>		<b>28,728</b>
(1) 固定資産処分益		28,728
<b>6. 特別損失</b>		<b>9,943</b>
(1) 固定資産処分損		9,943
<b>税金等調整前当期利益</b>		<b>248,391</b>
7. 法人税・住民税及び事業税		29,319
8. 過年度法人税等追徴税額		995
9. 法人税等調整額		22,696
10. 法人税等合計		53,009
11. 当期利益		195,382
12. 非支配株主に帰属する当期利益		2,068
<b>当期剰余金</b>		<b>193,314</b>

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	平成30年度	令和元年度
1 事業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期利益	101,586	248,391
減価償却費	192,379	173,380
減損損失	73,157	0
貸倒引当金の増加額(△は減少)	2,347	6,681
退職給付引当金の増加額(△は減少)	△ 2,742	△ 10,950
信用事業資金運用収益	△ 155,972	△ 162,733
信用事業資金調達費用	42,741	44,982
共済貸付金利息	△ 48	△ 5
共済借入金利息	48	5
受取雑利息及び受取出資配当金	△ 6,994	△ 7,049
支払雑利息	298	143
固定資産売却損益(△は益)	△ 103,023	△ 28,689
固定資産除去損	4,296	4,545
外部出資関係損益(△は益)	0	△ 61
(信用事業活動による資産及び負債の増減)		
貸出金の純増(△)減	△ 897,562	△ 1,357,161
預金の純増(△)減	130,000	530,000
貯金の純増減(△)	504,388	445,154
その他の信用事業資産の純増(△)減	△ 3,706	1,693
その他の信用事業負債の純増減(△)	65,682	28,519
(共済事業活動による資産及び負債の増減)		
共済貸付金の純増(△)減	1,565	1,060
共済借入金の純増減(△)	△ 1,565	△ 1,060
共済資金の純増減(△)	14,226	△ 15,391
未経過共済付加収入の純増減(△)	169	0
その他の共済事業資産の純増(△)減	△ 263	△ 445
その他の共済事業負債の純増減(△)	56	△ 270
(経済事業活動による資産及び負債の増減)		
受取手形及び経済事業未収金の純増(△)減	△ 49,598	△ 35,972
経済受託債権の純増(△)減	31,622	△ 13,093
棚卸資産の純増(△)減	△ 32,808	185,233
支払手形及び経済事業未払金の純増減(△)	△ 1,376	△ 8,689
経済受託債務の純増減(△)	△ 3,479	12,200
その他経済事業資産の純増(△)減	24,703	△ 38,274
その他経済事業負債の純増減(△)	11,205	74,846
(その他の資産及び負債の増減)		
未払消費税等の増減額(△)	△ 2,872	23,900
その他の資産の純増(△)減	255	△ 864
その他の負債の純増減(△)	7,431	3,396
信用事業資金運用による収入	150,616	161,382
信用事業資金調達による支出	△ 35,035	△ 50,944
共済貸付金利息による収入	58	27
共済借入金利息による支出	△ 58	△ 27
事業の利用分量に対する配当金の支払額	△ 45,329	△ 20,525
小 計	16,398	193,335
雑利息及び出資配当金の受取額	6,994	7,049
雑利息の支払額	△ 298	△ 143
法人税等の支払額	△ 1,710	△ 46,172
事業活動によるキャッシュ・フロー	21,384	154,069
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	-	-
固定資産の取得による支出	△ 141,768	△ 189,753
固定資産の売却による収入	155,683	41,955
外部出資による支出	△ 795	△ 825
外部出資の売却等による収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,120	△ 148,623
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
設備の借入による収入	0	0
設備借入金の返済による支出	△ 13,949	△ 14,104
出資の増額による収入	60,129	61,674
出資の払戻による支出	△ 56,118	△ 34,764
持分の譲渡による収入	468	7,233
持分の取得による支出	△ 7,233	△ 4,695
出資配当金の支払額	△ 12,510	△ 12,505
非支配株主への配当金支払額	△ 11	△ 9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 29,224	2,830
4 現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
5 現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)	5,281	8,277
6 現金及び現金同等物の期首残高	65,515	70,796
7 現金及び現金同等物の期末残高	70,796	79,073

## 平成30年度

### 連結剰余金計算書

(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

(単位:千円)

(資本剰余金の部)	
資本剰余金期首残高	1,854
資本剰余金増加高	-
<hr/>	
資本剰余金減少高	-
<hr/>	
資本剰余金期末残高	1,854
<hr/>	
(利益剰余金の部)	
利益剰余金期首残高	1,485,769
利益剰余金増加高	
当期剰余金	72,185
<hr/>	
利益剰余金減少高	
出資配当金	12,510
事業分量配当金	45,329
小計	57,839
<hr/>	
利益剰余金期末残高	1,500,115
<hr/>	

## 令和元年度

## 連結剰余金計算書

(自平成31年1月1日 至令和元年12月31日)

(単位:千円)

(資本剰余金の部)	
資本剰余金期首残高	1,854
資本剰余金増加高	-
資本剰余金減少高	-
資本剰余金期末残高	1,854
(利益剰余金の部)	
利益剰余金期首残高	1,500,115
利益剰余金増加高	
当期剰余金	193,314
利益剰余金減少高	
出資配当金	12,505
事業分量配当金	20,525
小計	33,030
利益剰余金期末残高	1,660,399

## 平成 30 年度【連結注記表】

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

①連結される子会社 3社

株式会社 ミルクの郷

株式会社 パストランド

株式会社 コーラク

#### (2) 連結される子会社の事業年度に関する事項

①12月末日 3社

②当組合及び連結される全ての子会社の決算日は、毎年12月末日であります。

#### (3) 連結される子会社の資産及び負債の評価に関する事項

当組合の出資と子会社の資本との連結に伴う子会社の資産と負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

#### (4) 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定の残高はないので適用しておりません。

#### (5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しております。

### 2. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券(外部出資勘定の株式を含む)の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券 該当ありません

②その他有価証券

〔時価のあるもの〕 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

〔時価のないもの〕 移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

①購買品 移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

②販売品

・製品及び商品 移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

・その他の販売品 最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

③その他の棚卸資産

・原材料及び貯蔵品 移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

・肥育牛 個別法による低価法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに市乳工場等の機械及び一部備品及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法）を採用しています。

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法。なお、自組合利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しています。

③リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法。

#### (4) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている経理規程、償却・引当基準により、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、債権額から、

担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除しその残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。

上記以外の債権については、貸倒実績率等で算出した額を計上しております。

すべての債権は、資産査定要領および自己査定マニュアルに基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

#### ②外部出資等損失引当金

当組合の外部出資先への出資に係る損失に備えるため、出資形態が株式のものについては有価証券と同様の方法により、株式以外のものについては貸出債権と同様の方法により、必要と認められる額を計上しています。

### (5) 収益及び費用の計上基準

#### ①貸手側のファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

貸手となっている所有権移転ファイナンス・リース取引は、リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

### (6) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しています。

### (7) 記載金額の端数処理

記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しており、金額五百円未満の科目については「0」で表示しています。また、期末残高のない勘定科目は「-」で表示しております。

## 3. 連結貸借対照表関係

### (1) 資産に係る圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は 246,642 千円であり、その内訳は次の通りです。

建物構築物 194,397 千円、機械装置 42,707 千円、工具器具備品 9,538 千円

### (2) 担保に供されている資産

以下の資産は、北海道信用農業協同組合連合会から借用した設備借入金 14,104 千円の担保に供しております。

定期預金 150,000 千円の全部

### (3) 役員に対する金銭債権・債務の総額

理事、監事に対する金銭債権の総額 該当ありません

理事、監事に対する金銭債務の総額 該当ありません

なお、注記すべき金銭債権・金銭債務は、農協法 35 条の 2 第 2 項の規定により理事会の承認が必要とされる取引を想定しており、以下の取引は除いて記載しております。

イ 金銭債権については、総合口座取引における当座貸越、貯金を担保とする貸付金(担保とされた貯金総額を超えないものに限る)、その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ロ 金銭債務については、貯金、共済契約その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ハ 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他職務遂行の対価として組合から受ける財産上の利益をいう。)の給付

### (4) 貸出金に含まれるリスク管理債権

① 貸出金のうち、破綻先債権は 2,374 千円・延滞債権は該当ありません。

なお、「破綻先債権」とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税施行令第 96 条第 1 項

第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金であって破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したものの以外の貸出金です。

- ② 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は該当ありません。

なお、「3か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金(破綻先債権及び延滞債権を除く)です。

- ③ 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は該当ありません。

なお、「貸出条件緩和債権」とは、債務者の再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものです。

- ④ ①～③の合計額は2,374千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

#### 4. 連結損益計算書関係

##### (1) 減損損失の状況

- ① 当期において減損損失を認識した資産又は資産グループの概要

部 門	場 所	種 類	備 考
経 済 部	千 歳 市 駒 里 2 2 1 6	土 地 建物構築物	千歳牧場
総 務 部 市乳事業部	札幌市東区苗穂町3丁目3番7号 札幌市東区丘珠町573番地27	電話加入権	8回線 3回線

- ② 減損損失の認識に至った経緯

恵庭事務所閉鎖並びに光回線への切替に伴う通信回線の休止及び千歳牧場を閉鎖する方針の決定により、当該資産が減損の兆候に該当したため減損損失の認識の判定を行ったところ、時価の著しい下落が認められたので、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

- ③ 減損損失の金額及び主な固定資産の種類毎の当該金額の内訳

部 門	土 地	建物構築物	電話加入権	合 計
総 務 部	—	—	303,600 円	303,600 円
経 済 部	27,582,864 円	45,038,332 円	—	72,621,196 円
市乳事業部	—	—	232,200 円	232,200 円
合 計	27,582,864 円	45,038,332 円	535,800 円	73,156,996 円

- ④ 回収可能額に関する事項

土地の回収可能価額は不動産鑑定評価により算定し、建物構築物の回収可能価額は収益還元法により測定しております。また、電話加入権の回収可能価額は相続税評価額により算定しております。

##### (2) 棚卸資産評価の状況

畜産事業費用には、低価法による洗い替えにより、前期肉用牛評価損戻入益18,947千円と当期肉用牛評価損繰入損2,622千円が含まれております。

#### 5. 有価証券関係

有価証券には、「外部出資」に含まれる株式が含まれております。

##### (1) 有価証券の時価、評価差額に関する事項

- ① その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価	貸借対照表 計上額	評価差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	51,033 千円	153,972 千円	102,939 千円
合計		51,033 千円	153,972 千円	102,939 千円

なお、上記評価差額から繰延税金負債 28,442 千円を差し引いた額 74,497 千円が「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

- (2) 当期中に売却したその他有価証券  
該当ありません
- (3) 有価証券の減損処理の状況  
該当ありません

## 6. 退職給付関係

### (1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づき日本生命保険相互会社との契約による確定給付企業年金制度を採用しております。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

### (2) 前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における前払年金費用	3,543 千円
①退職給付費用	△ 48,773 千円
②年金資産(確定給付企業年金制度)への拠出金	51,515 千円
調整額合計	2,742 千円 ①+②
期末における前払年金費用	6,285 千円 期首+調整額

### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された前払年金費用の調整表

①退職給付債務	△673,455 千円
②年金資産(確定給付型年金制度)	679,740 千円
③未積立退職給付債務	6,285 千円 ①+②
④貸借対照表計上額純額	6,285 千円 ③
⑤前払年金費用	6,285 千円

### (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

①簡便法で計算した退職給付費用	48,773 千円
-----------------	-----------

### (5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 8,246 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された平成 30 年 3 月現在における平成 44 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、101,926 千円となっています。

## 7. 税効果会計関係

### (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	103 千円
外部出資等損失引当金	829 千円
減損損失否認額	68,548 千円
未払費用否認額	2,385 千円
その他	1,955 千円
繰延税金資産小計	73,820 千円
評価性引当額	△48,483 千円
繰延税金資産合計(A)	25,337 千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△1,736 千円
中間納付仮払事業税等	△496 千円

その他有価証券評価差額金	<u>△28,442 千円</u>
繰延税金負債合計(B)	<u>△30,674 千円</u>
繰延税金負債の純額(A)+(B)	<u>△5,337 千円</u>

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の重要な差異

法定実効税率	27.62%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.62%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.74%
事業分量配当金	△5.58%
住民税均等割等	4.72%
評価性引当額の増減	0.15%
その他	△1.16%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.63%

8. 重要な後発事象

該当ありません。

9. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表上の「現金」及び「預金」の中の当座預金、普通預金及び通知預金となっております。

## 令和元年度【連結注記表】

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

①連結される子会社 3社

株式会社 ミルクの郷

株式会社 パストランド

株式会社 コーラク

#### (2) 連結される子会社の事業年度に関する事項

①12月末日 3社

②当組合及び連結される全ての子会社の決算日は、毎年12月末日であります。

#### (3) 連結される子会社の資産及び負債の評価に関する事項

当組合の出資と子会社の資本との連結に伴う子会社の資産と負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

#### (4) 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定の残高はないので適用しておりません。

#### (5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しております。

#### (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」及び「預金」の中の当座預金、普通預金及び通知預金となっております。

### 2. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券(外部出資勘定の株式を含む)の評価基準及び評価方法

##### ①その他有価証券

[時価のあるもの]

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

[時価のないもの]

移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

##### ①購買品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

##### ②販売品(製品および商品)

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

##### ③その他の棚卸資産(原材料)

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

##### ④その他の棚卸資産(貯蔵品)

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに市乳工場等の機械及び一部備品及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法)を採用しています。

##### ②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法。なお、自組合利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間(5年)に基づく定額法により償却しています。

##### ③リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている経理規程、償却・引当基準により、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除しその残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。

上記以外の債権については、貸倒実績率等で算出した額を計上しております。

すべての債権は、資産査定要領および自己査定マニュアルに基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

#### ②外部出資等損失引当金

当組合の外部出資先への出資に係る損失に備えるため、出資形態が株式のものについては有価証券と同様の方法により、株式以外のものについては貸出債権と同様の方法により、必要と認められる額を計上しています。

### (5) 収益及び費用の計上基準

#### ①貸手側のファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

貸手となっている所有権移転ファイナンス・リース取引は、リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

### (6) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しています。

### (7) 記載金額の端数処理

記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しており、金額五百円未満の科目については「0」で表示しています。また、期末残高のない勘定科目は「-」で表示しております。

## 3. 表示方法の変更

### (1) 損益計算書の事業収益及び事業費用の追加

農業協同組合法施行規則の改正に伴い、損益計算書に各事業ごとの収益及び費用を合算し、各事業相互間の内部損益を除去した「事業収益」「事業費用」を損益計算書に表示しています。

## 4. 連結貸借対照表関係

### (1) 資産に係る圧縮記帳額

国庫補助金等の受入れにより有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は 246,177 千円であり、その内訳は次の通りです。

建物構築物 193,974 千円、機械装置 42,665 千円、工具器具備品 9,538 千円

### (2) 役員に対する金銭債権・債務の総額

理事、監事に対する金銭債権の総額 該当ありません

理事、監事に対する金銭債務の総額 該当ありません

なお、注記すべき金銭債権・金銭債務は、農協法 35 条の 2 第 2 項の規定により理事会の承認が必要とされる取引を想定しており、以下の取引は除いて記載しております。

イ 金銭債権については、総合口座取引における当座貸越、貯金を担保とする貸付金(担保とされた貯金総額を超えないものに限る)、その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ロ 金銭債務については、貯金、共済契約その他の組合の事業に係る多数人を相手方とする定型的取引によって生じたもの

ハ 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他職務遂行の対価として組合から受ける財産上の利益をいう。)の給付

### (3) 貸出金に含まれるリスク管理債権

① 貸出金のうち、破綻先債権は 0 千円・延滞債権は 2,549 千円です。

なお、「破綻先債権」とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税施行令第 96 条第 1 項第 3 号イからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金であって破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸出金です。

- ② 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は該当ありません。

なお、「3か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金(破綻先債権及び延滞債権を除く)です。

- ③ 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は該当ありません。

なお、「貸出条件緩和債権」とは、債務者の再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものです。

- ④ ①～③の合計額は2,549千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

## 5. 連結損益計算書関係

- (1) 減損損失の状況

該当ありません。

- (2) 棚卸資産評価の状況

畜産事業費用には、低価法による洗い替えにより、前期肉用牛評価損戻入益2,622千円が含まれております。

- (3) 追加情報

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しております。

## 6. 有価証券関係

有価証券には、「外部出資」に含まれる株式が含まれております。

- (1) 有価証券の時価、評価差額に関する事項

① その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価	貸借対照表計上額	評価差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	51,840千円	145,895千円	94,055千円
合計		51,840千円	145,895千円	94,055千円

なお、上記評価差額から繰延税金負債25,978千円を差し引いた額68,077千円が「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

- (2) 当期中に売却したその他有価証券

該当ありません

- (3) 有価証券の減損処理の状況

該当ありません

## 7. 退職給付関係

- (1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づき日本生命保険相互会社との契約による確定給付企業年金制度を採用しております。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

- (2) 前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における前払年金費用	6,285千円
①退職給付費用	△ 54,952千円
②年金資産(確定給付企業年金制度)への拠出金	65,902千円
調整額合計	10,950千円 ①+②

期末における前払年金費用	17,235 千円	期首+調整額
(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された前払年金費用の調整表		
①退職給付債務	△718,663 千円	
②年金資産(確定給付型年金制度)	735,898 千円	
③未積立退職給付債務	17,235 千円	①+②
④貸借対照表計上額純額	17,235 千円	③
⑤前払年金費用	17,235 千円	
(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額		
①簡便法で計算した退職給付費用	54,952 千円	
(5) 特例業務負担金の将来見込額		

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 8,408 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された平成 31 年 3 月現在における令和 14 年 3 月までの特例業務負担金の将来見込額は、98,691 千円となっています。

## 8. 税効果会計関係

### (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳

繰延税金資産	
外部出資等損失引当金	812 千円
減損損失否認額	48,465 千円
未払費用否認額	2,928 千円
その他	1,429 千円
繰延税金資産小計	53,634 千円
評価性引当額	△48,465 千円
繰延税金資産合計(A)	5,169 千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△4,760 千円
その他有価証券評価差額金	△25,978 千円
繰延税金負債合計(B)	△30,738 千円
繰延税金負債の純額(A)+(B)	△25,569 千円

### (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の重要な差異

法定実効税率	27.62%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.68%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.31%
事業分量配当金	△6.52%
住民税均等割等	1.92%
各種税額控除等	△1.51%
その他	△0.54%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.34%

## 9. 重要な後発事象

該当ありません。

#### 4. 連結事業年度のリスク管理債権の状況

(単位:百万円)

項目	30年度	元年度	増減
破綻先債権額	2	-	△ 2
延滞債権額	-	3	3
3ヵ月以上延滞債権額	-	-	-
貸出条件緩和債権額	-	-	-
計	2	3	1

注1) 破綻先債権

元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金)をいいます。

注2) 延滞債権

未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸出金をいいます。

注3) 3ヵ月以上延滞債権

元金又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金で、破綻先債権および延滞債権に該当しないものをいいます。

注4) 貸出条件緩和債権

債務者の再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

(単位:百万円)

	30年度	元年度	増減
リスク管理債権合計(A)	2	3	1
うち担保保証で保全されている額(B)	2	3	1
個別貸倒引当金残高(C)	-	-	-
担保保証等控除後債権額(D)	-	-	-

注1)  $(D) = (A) - \{(B) + (C)\}$

注2) 担保・保証付債権額

リスク管理債権額のうち、貯金・定期積金、有価証券(上場公社債、上場株式)及び確実な不動産担保付の貸出残高ならびに農業信用基金協会等公的保証機関等による保証付の貸出金についての当該担保・保証相当額です。

注3) 個別計上貸倒引当金残高

リスク管理債権のうち、すでに個別貸倒引当金に繰り入れた当該引当金の残高であり、貸借対照表上の個別貸倒引当金額とは異なります。

注4) リスク管理債権合計額から、担保・保証付債権額を控除した貸出金残高です。

## 5. 連結事業年度の金融再生法に基づく開示債権の状況

(単位:百万円)

	債権額	保 全 額			合 計
		担 保	保 証	引 当	
平成30年度					
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2	-	2	-	2
危険債権	-	-	-	-	-
要管理債権	-	-	-	-	-
小計	2	-	2	-	2
正常債権	5,439	1,092	4,185	-	5,277
合計	5,441	1,092	4,187	-	5,279
令和元年度					
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	-	-	-	-	-
危険債権	3	-	3	-	3
要管理債権	-	-	-	-	-
小計	3	-	3	-	3
正常債権	6,808	1,009	5,629	-	6,638
合計	6,811	1,009	5,632	-	6,641

### 注1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破たんしている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

### 注2) 危険債権

「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受け取りができない可能性の高い債権です。

### 注3) 要管理債権

「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。

### 注4) 正常債権

「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

## 6. 連結事業年度の最近5年間の主要な経営指標

(単位:百万円)

項 目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
連結事業収益	9,436	9,892	9,765	9,614	10,086
信用事業収益	145	149	148	156	163
共済事業収益	36	42	41	45	45
農業関連事業収益	9,095	9,547	9,419	9,251	9,787
その他事業収益	160	154	157	162	215
連結経常利益	156	288	171	134	230
連結当期剰余金	104	387	123	72	193
連結純資産額	2,435	2,830	2,920	2,929	3,115
連結総資産額	20,459	21,515	22,438	23,041	23,774
連結自己資本比率	18.28%	20.92%	20.73%	20.75%	21.17%

(注)「連結自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しております。

## 7. 連結事業年度の事業別経常収支等

(単位:百万円)

	30年度	元年度	
信用事業	事業収益	156	163
	経常利益	20	18
	資産の額	18,109	18,934
共済事業	事業収益	45	45
	経常利益	20	21
	資産の額	121	110
農業関連事業	事業収益	9,251	9,787
	経常利益	145	210
	資産の額	4,693	4,598
その他事業	事業収益	162	215
	経常利益	△ 51	△ 19
	資産の額	118	132
合 計	事業収益	9,614	10,086
	経常利益	134	230
	資産の額	23,041	23,774

## 8. 連結自己資本の充実の状況

### 連結自己資本比率の状況

令和元年12月末における自己資本比率は、21.17%となりました。  
連結自己資本は、組合員の普通出資による資本調達を行っております。

○ 普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	サツラク農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本にかかる基礎的 項目に算入した額	1,303百万円

## (1) 自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円、%)

項 目	当期末	前期末	
			経過措置による不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目</b>			
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	2,889	2,738	
うち、出資金及び資本準備金の額	1,305	1,278	
うち、再評価積立金の額	-	-	
うち、利益剰余金の額	1,660	1,500	
うち、外部流出予定額(△)	△ 71	△ 33	
うち、上位以外に該当するものの額	△ 5	△ 7	
コア資本に係る調整後非支配株主の額	86	84	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	25	18	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	25	18	
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-	
適格旧資本調達手段の額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-	
うち、回転出資金の額	-	-	
うち、上記以外に該当するものの額	-	-	
公的機関による資本増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-	
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	3,000	2,840	
<b>コア資本に係る調整項目</b>			
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く)の額の合計額	9	2	1
うち、のれんに係るものの額			
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額	9	2	1
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く)の額			
適格引当金不足額	-	-	
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	
負債の時価評価により生じた時価評価差額金であって自己資本に算入される額	-	-	
前払年金費用の額	12	4	1
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く)の額	-	-	
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額			
特定項目に係る10%基準超過額			
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額			
うち、モーゲージ・サービシング・ライセンスに係る無形固定資産に関連するものの額			
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る)に関連するものの額			

特定項目に係る15%基準超過額			
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに 関連するものの額			
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資 産に関連するものの額			
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連す るものの額			
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	22	6	
<b>自己資本</b>			
自己資本の額（（イ）－（ロ））（ハ）	2,978	2,833	
<b>リスク・アセット 等</b>			
信用リスク・アセットの額の合計額	11,765	11,336	
資産（オン・バランス）項目	11,765	11,336	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される 額の合計額		△ 229	
うち、無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライ ツに係るものを除く）		1	
うち、繰延税金資産			
うち、前払年金費用		1	
うち、他の金融機関向けエクスポージャー		231	
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に係 るものの額			
うち、上記以外に該当するものの額			
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た 額	2,304	2,318	
信用リスク・アセット調整額			
オペレーショナル・リスク相当額調整額			
リスク・アセット等の額の合計額（ニ）	14,070	13,654	
<b>自己資本比率</b>			
自己資本比率（（ハ）／（ニ））	21.17	20.75	

注)

- 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。
- 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあつては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあつては基礎的手法を採用しています。
- 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

## (2) 自己資本の充実度に関する事項

### ① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分毎の内訳

(単位:百万円)

信用リスク・アセット	30年度			元年度		
	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 $b=a \times 4\%$	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 $b=a \times 4\%$
現金	41			43		
我が国の中央政府及び中央銀行向け						
外国の中央政府及び中央銀行向け						
国際決済銀行等向け						
我が国の地方公共団体向け						
外国の中央政府等以外の公共部門向け						
国際開発銀行向け						
地方公共団体金融機構向け						
我が国の政府関係機関向け						
地方三公社向け						
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	12,354	2,471	99	11,826	2,365	95
法人等向け	276	136	5	225	100	4
中小企業等向け及び個人向け	334	140	6	543	307	12
抵当権付住宅ローン	1,112	387	15	1,047	365	15
不動産取得等事業向け	343	338	14	308	304	12
三月以上延滞等						
取立未済手形	4	1	0	2		
信用保証協会等保証付	1,257	123	5	2,239	221	9
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付						
共済約款貸付	1					
出資等	304	304	12	296	296	12
(うち出資等のエクスポージャー)	304	304	12	296	296	12
(うち重要な出資のエクスポージャー)						

上記以外	7,082	7,666	307	7,281	7,808	312
(うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)						
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象普通出資等に係るエクスポージャー)	462	1,155	46	462	1,155	46
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	26	66	3	9	22	1
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー)						
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー)						
(うち上記以外のエクスポージャー)	6,594	6,445	258	6,810	6,631	265
証券化						
(うちSTC要件適用分)						
(うち非STC適用分)						
再証券化						
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー						
(うちルックスルー方式)						
(うちマンドート方式)						
(うち蓋然性方式250%)						
(うち蓋然性方式400%)						
(うちフォールバック方式)						
経過措置によりリスクアセットの額に算入されるものの額		1	0			
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額(△)		231	9			
標準的手法を適用するエクスポージャー別計						
CVAリスク相当額÷8%						
中央清算機関関連エクスポージャー						
合計(信用リスク・アセットの額)	23,110	11,336	453	23,810	11,765	471

オペレーショナル・リスクに対する 所要自己資本の額 <基礎的手法>	オペレーショナル・リスク相 当額を8%で除して得た額	所要 自己資本額	オペレーショナル・リスク相 当額を8%で除して得た額	所要 自己資本額
	a	b=a×4%	a	b=a×4%
	2,318	93	2,304	92
所要自己資本額計	リスク・アセット等(分母)合計	所要 自己資本額	リスク・アセット等(分母)合計	所要 自己資本額
	a	b=a×4%	a	b=a×4%
	13,654	546	14,070	563

- 注1) 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。
- 注2) 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
- 注3) 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
- 注4) 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
- 注5) 「証券化(証券化エクスポージャー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。
- 注6) 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額および調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
- 注7) 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産(固定資産等)・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
- 注8) オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、当JAでは基礎的手法を採用しています。

<オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>

$$\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

### (3) 信用リスクに関する事項

#### リスク管理の手法及び手続の概要

連結グループでは、JA以外で与信を行っていないため、連結グループにおける信用リスク管理の方針及び手続等は定めていません。

なお、JAの信用リスク管理の方針及び手続等の具体的内容は、単体の開示内容をご参照ください。

#### ① 標準的手法に関する事項

連結自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

- (ア) リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター(R&I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S&Pグローバル・レーティング(S&P)
フィッチレーティングスリミテッド(Fitch)

- (イ) リスク・ウエイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポージャー	適格格付機関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー(長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー(短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

② 信用リスクに関するエクスポージャー(地域別、業種別、残存期間別)及び三月以上延滞エクスポージャーの  
 期末残高

(単位:百万円)

	30年度				元年度				
	信用リスクに 関するエク スポージャーの 残高	うち貸出金 等	うち債券	三月以上延 滞エク スポージャー	信用リスクに 関するエク スポージャーの 残高	うち貸出金 等	うち債券	三月以上延 滞エク スポージャー	
法人	農業	300	300	-	-	276	276	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	3	3	-	-	1	1	-	-
	電気・ガス・熱 供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	12,302	-	-	-	11,776	-	-	-
	卸売・小売・飲 食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本国政府・地 方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-
	上記以外	1,009	241	-	-	986	226	-	-
	個人	4,754	4,752	-	-	6,152	6,152	-	-
その他	4,778	-	-	0	4,622	-	-	-	
業種別残高計	23,146	5,296	-	0	23,813	6,655	-	0	
1年以下	12,546	448	-	-	12,346	572	-	-	
1年超3年以下	191	191	-	-	144	144	-	-	
3年超5年以下	240	240	-	-	276	276	-	-	
5年超7年以下	257	257	-	-	320	320	-	-	
7年超10年以下	261	261	-	-	349	349	-	-	
10年超	3,872	3,872	-	-	4,928	4,928	-	-	
期限の定めのないもの	5,779	27	-	0	5,450	66	-	-	
残存期間別残高計	23,146	5,296	-	0	23,813	6,655	-	0	
信用リスク 期末残高	23,146	5,296	-	0	23,813	6,655	-	0	

注1) 国外のエクスポージャーは該当ありませんので、地域別の区分は省略しております。

注2) 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

注3) 「その他」には、現金・その他の資産(固定資産等)が含まれます。

注4) 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞しているエクスポージャーのことです。

③ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位:百万円)

	30年度					元年度				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	16	18	-	16	18	18	25	-	18	25
個別貸倒引当金	-	0	-	-	0	0	-	0	0	-

④ 地域別・業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位:百万円)

	30年度						元年度					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却
			目的使用	その他					目的使用	その他		
法人	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	0	-	-	0	-	0	-	0	0	-
	上記以外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
個人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
業種別計	-	0	-	-	0	-	0	-	0	0	-	

注1) 国外のエクスポージャーは該当ありませんので、地域別の区分は省略しております。

⑤ 信用リスク削減効果勘案後の残高及び自己資本控除額

(単位:百万円)

		30年度	元年度
信用 リス ク 削 減 効 果 勘 案 後 残 高	リスク・ウェイト0%	42	43
	リスク・ウェイト2%	0	0
	リスク・ウェイト4%	0	0
	リスク・ウェイト10%	1,229	2,211
	リスク・ウェイト20%	12,357	11,828
	リスク・ウェイト35%	1,107	1,043
	リスク・ウェイト50%	0	0
	リスク・ウェイト75%	59	315
	リスク・ウェイト100%	7,213	7,328
	リスク・ウェイト150%	0	0
	リスク・ウェイト200%	462	0
	リスク・ウェイト250%	26	468
	その他	6	14
	リスク・ウェイト 1250%	0	0
自己資本控除額	0	0	
合 計	22,501	23,250	

注)

1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
3. 経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウェイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

#### (4) 信用リスク削減手法に関する事項

##### ① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結自己資本比率の算出にあたって、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」において定めています。  
信用リスク削減手法の適用及び管理方針、手続は、JAのリスク管理の方針及び手続に準じて行っています。  
JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的内容は、単体の開示内容をご参照ください。

##### ② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

	30年度		元年度	
	適格金融資産担保	保証	適格金融資産担保	保証
地方公共団体金融機関及び我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—
法人等向け	141	—	121	—
中小企業等向け及び個人向け	23	223	26	164
抵当権付住宅ローン	—	—	—	—
不動産取得等事業向け	—	—	—	—
三月以上延滞等	—	—	—	—
上記以外	95	27	148	16
合計	259	250	295	180

注1) 「エクスポージャー」とは、資産並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。

注2) 「我が国の政府関係機関向け」には、「地方公営企業等向けエクスポージャー」を含めて記載しています。

注3) 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことであります。

注4) 「上記以外」には、現金・その他の資産(固定資産等)が含まれます。

#### (5) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

#### (6) 証券化エクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません。

## (7) オペレーショナルリスクに関する事項

### ① オペレーショナル・リスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結グループにかかるオペレーショナル・リスク管理は、子会社においてはJ Aのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。  
JAの信用リスク管理の方針及び手続等の具体的内容は、単体の開示内容を参照ください。

## (8) 出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

### ① 出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結グループにかかる出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理は、子会社においてはJ Aのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。  
JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的内容は、単体の開示内容を参照ください。

### ② 出資等エクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価

(単位:百万円)

	30年度		元年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	154	154	146	146
非上場	536	536	533	533
合計	690	690	679	679

### ③ 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益

(単位:百万円)

30年度			元年度		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
-	-	-	-	-	-

### ④ 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額 (その他有価証券の評価損益等)

(単位:百万円)

30年度		元年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
103	-	94	-

(9) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

	令和元年度	平成30年度
ルックスルー方式を適用するエクスポージャー	-	
マンドート方式を適用するエクスポージャー	-	
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	-	
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	-	
フォールバック方式(1250%)を適用するエクスポージャー	-	

## (10) 金利リスクに関する事項

### ① 金利リスクの算定手法に関する事項

連結グループの金利リスクの算定手法は、JAの金利リスクの算定手法に準じた方法により行っています。JAの金利リスクの算定手法は、単体の開示内容(p. 65)を参照ください。

### ② 金利リスクに関する事項

(単位:百万円)

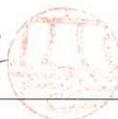
IRRBB1:金利リスク		イ	ロ	ハ	ニ
項番		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	470			
2	下方パラレルシフト	0			
3	スティープ化	471			
4	フラット化	0			
5	短期金利上昇	0			
6	短期金利低下	0			
7	最大値	471			
		ホ		ヘ	
		当期末		前期末	
8	自己資本の額	2,645			

## VII. 財務諸表の正確性等にかかる確認

### 確 認 書

- 1 私は、サツラク農業協同組合の平成31年1月1日から令和元年12月31日までの事業年度にかかるディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において、農業協同組合法施行規則に基づき適正に表示されていることを確認いたしました。
- 2 この確認を行うに当たり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しております。
  - (1) 業務分掌と所管部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
  - (2) 業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております。
  - (3) 重要な経営情報については、理事会等へ適切に付議・報告されております。

令和2年4月30日  
サツラク農業協同組合  
代表理事組合長

大坪啓博 

## Ⅷ. 沿革・歩み

### 1. トピックス

#### ■ 設立～1920年代

- 1895年（明治28年） ●札幌牛乳搾取業組合（申合）通称四日会設立  
…札幌付近の酪農家10数名によりつくられた北海道初の民間酪農団体  
後のサツラク農協・雪印乳業(株)の母体…
- 1915年（大正4年） ●札幌牛乳販売組合設立
- 1917年（大正6年） ●札幌酪農組合（申合）と改称
- 1920年（大正9年） ●有限責任札幌酪農信用販売購買生産組合設立認可

#### ■ 1930～1980年代

- 1933年（昭和8年） ●札幌ミルクプラントを操業
- 1944年（昭和19年） ●札幌酪農組合解散 ●札幌酪農牛乳(株)設立
- 1948年（昭和23年） ●札幌酪農業協同組合設立
- 1951年（昭和26年） ●乳牛の人工授精事業開始
- 1959年（昭和34年） ●札幌市苗穂町に事務所移転
- 1961年（昭和36年） ●恵庭事業所竣工
- 1962年（昭和37年） ●配合飼料工場竣工
- 1968年（昭和43年） ●「サツラク農業協同組合」に改称
- 1969年（昭和44年） ●貯金残高10億円達成
- 1970年（昭和45年） ●市乳工場竣工  
●本所新事務所竣工
- 1972年（昭和47年） ●旭川支所、事務所竣工
- 1980年（昭和55年） ●肥育牧場(千歳市)竣工
- 1987年（昭和62年） ●創立40周年記念式典
- 1988年（昭和63年） ●貯金残高100億円達成

#### ■ 1990～2000年代

- 1990年（平成2年） ●CI戦略プロジェクト発足
- 1991年（平成3年） ●第1回「サツラク農協 市民ふれあい祭り」開催  
…消費拡大運動の新たな展開…
- 1994年（平成6年） ●貯金残高150億円達成
- 1995年（平成7年） ●札幌牛乳搾取業組合創立100周年記念式典  
●ミルクの郷一部オープン ●新工場本稼働
- 1996年（平成8年） ●ミルクの郷竣工・落成式
- 1997年（平成9年） ●創立50周年記念式典
- 1998年（平成10年） ●組合50年史発行
- 1999年（平成11年） ●共済業務開始
- 2004年（平成16年） ●市乳製品デザインリニューアル
- 2008年（平成20年） ●濃縮設備導入・本稼働
- 2010年（平成22年） ●配合飼料工場閉鎖
- 2012年（平成24年） ●酪農アドバイザー採用
- 2013年（平成25年） ●ピュアブラン特許取得  
●本所耐震改修及び金融・共済店舗改装
- 2014年（平成26年） ●伊達センター移転
- 2018年（平成30年） ●恵庭事務所閉鎖
- 2019年（平成31年） ●肥育牧場(千歳市)閉鎖
- 2020年（令和2年） ●旭川事務所閉鎖